業務資料No. 705

# 現地日本語教師の本邦研修記録

## 第 5 回

1984年1月

国際協力事業団

移国内
JR
84 ― 7

JICA LIBRARY
1019640[0]

業務資料No.705

# 現地日本語教師の本邦研修記録

## 第　5　回

1984年1月

国際協力事業団

| 国際協力事業団 | |
|---|---|
| 受入月日 '85. 7.23 | 600 |
| | 234 |
| 登録No. 11796 | ESD |

# 目　　次


まえがき

研修内容 …… 1

研修総括報告書 …… 1

| | | | |
|---|---|---|---|
| ブラジル国 | ニテロイ | 富永由美子 | 1 |
| | マナウス | 木場克子 | 3 |
| | トメアスー | 榎末子 | 5 |
| | ドウラードス | 城田志津子 | 6 |
| | サンミゲール・アルカンジョ | 石川勤 | 8 |
| | テイシェラ・デ・フレイタス | 羽広妙子 | 10 |
| アルゼンティン国 | モロン | 貝原嗣子 | 11 |
| | フロレンシオ・バレーラ | 佐藤富美 | 13 |
| パラグァイ国 | アスンシオン | 山真美子 | 14 |
| | エンカルナシオン | 小田俊春 | 16 |
| ボリヴィア国 | サンファン | 二階堂慧子 | 18 |
| ドミニカ国 | サント・ドミンゴ | 小松和恵 | 19 |
| ペルー国 | リマ | 村上みさお | 20 |
| | リマ | 東恩納弘美 | 22 |

研修日誌 …… 25

歌集 ―かけ橋― …… 93

第5回現地日本語教師本邦研修日程表 …… 99

本邦研修生一覧 …… 106

# ま　え　が　き

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として主として戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきていますが、昭和５４年から新たに現地日本語教師の本邦研修を開始しました。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点は今後共十分論議を尽す必要がありますが、優れた教師の存在が日本語教育の推進上必要欠くべからざることは論をまちません。

しかし、日本語学校の教師の置かれた環境は必ずしも恵まれたものではないのが現状であります。

そこでこれら教師を３カ月間本邦に招き、日本語教授法その他の知識を修得せしめ、また、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現情等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この事業の趣旨であります。

本誌は第５回本邦研修教師１４名の総括報告書と、研修日誌等が集録されております。

最後に本事業の趣旨を深くご理解下さり、研修生を温かくご指導下さった玉川大学の諸先生方をはじめ、本研修にご協力いただきました関係機関の諸先生、関係者の皆様方に感謝の意を表するものであります。

１９８４年１月

国際協力事業団

移　住　事　業　部　長

昭和５８年度　本邦研修教師一同
（玉川学園国際教育室長 小原芳明先生を囲んで
於 学長室）

石川　勤（ブラジル）
羽広妙子（ブラジル）
木場克子（ブラジル）
城田志津子（ブラジル）
佐藤富美（アルゼンティン）
小松和恵（ドミニカ）
二階堂慧子（ボリヴィア）
東恩納弘美（ペルー）
山　真美子（パラグァイ）

貝原麗子（アルゼンティン）
村上みさお（ペルー）
小田俊春（パラグァイ）
小原先生
宮本由美子（ブラジル）
樓　末子（ブラジル）

玉川学園における体育実技

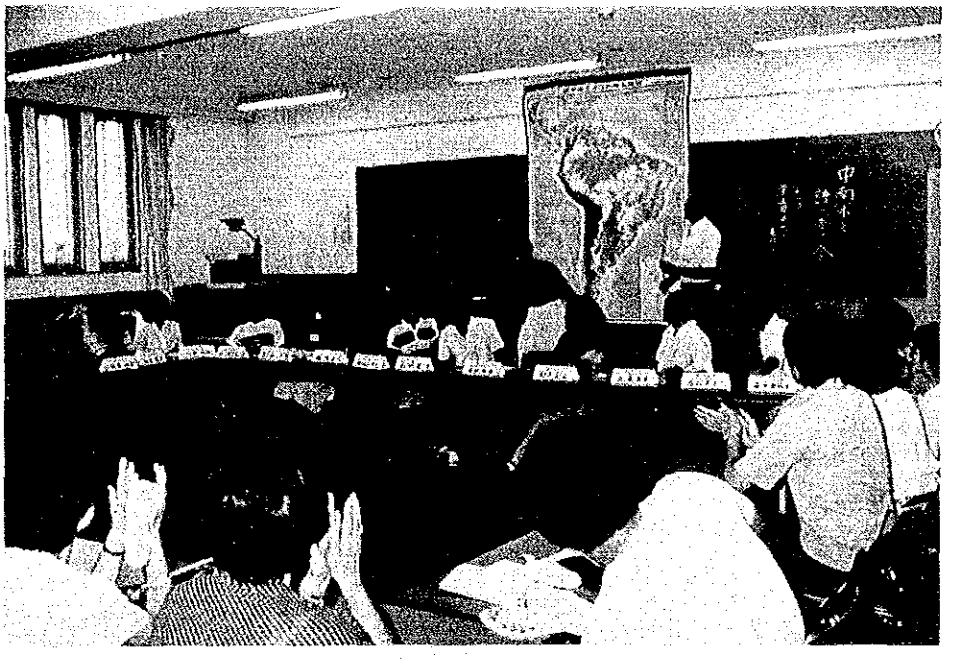
書道実習

美術教育

東京見物・皇居前

楠公銅像前

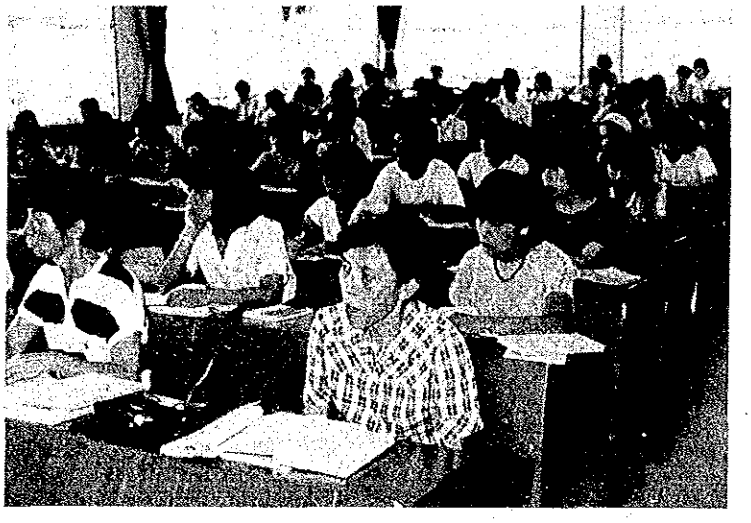
鎌倉大仏前



本邦研修教師を囲んで中南米を語り合う会

現地授業研究、玉川大学正善講師を囲んで

小学部授業参観



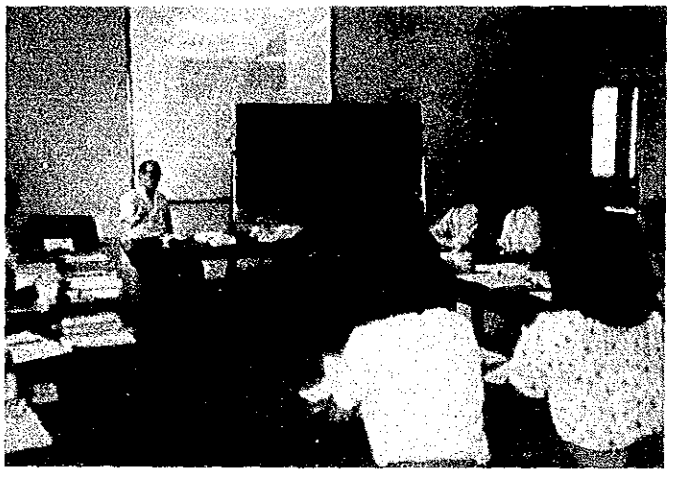
スクーリング　若人と共に

研修報告会（事業団）

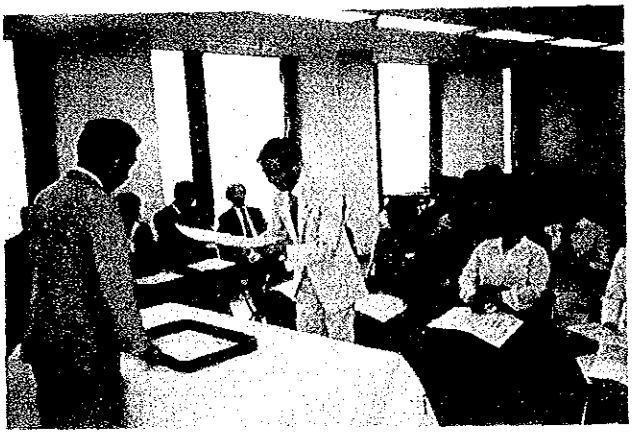
キャンプ実習（子供の国）

通大祭前夜祭でお国自慢の民族舞踊を披露する研修教師 ⟶

特別講義と紙工芸実習の先生を囲んで
（海外移住センター）



玉川大学片山先生の特別講義
「日本語を考える」



修了証書授与（事業団）

送別パーティー（玉川大学学長室）

↑

← 玉川学園内で本邦研修の記念植樹
（1983. 9. 16）

# 研　修　内　容

研　修　内　容

1．研修機関　　玉川大学国際教育室

2．研修期間　　１９８３年6月１７日～9月１６日

3．研修概要

第1期　　6月２１日～7月２３日

| 講義 | | | 見学研修・行事等 | |
|---|---|---|---|---|
| 講義名 | 担当教授 | 単位数 | 月日 | 事項 |
| 現地授業研究 | 正善 | １２ | 6. ２０ | 国際協力事業団開講式 |
| 体育リクリエーション指導 | 石井 | 4 | ２１ | 玉大ガイダンス、学園案内等 |
| 体育実技 | 永井 | 1 | ２５ | 中等部合唱祭見学 |
| 〃 | 古谷 | 2 | ２８ | 幼稚部参観 |
| 〃 | 中山 | 1 | ３０ | 小学部参観 |
| リトミック | 小野 | 4 | 7. ２ | 東京見物 |
| 美術 | 佐藤 | 4 | ７ | 国際学友会見学 |
| 書道 | 石川 | 4 | １２ | 学芸大付属大泉小学校見学 |
| 児童音楽 | 朝日 | 3 | １８ | 鎌倉見学研修 |
| 日本語教育 | 上原<br>片山<br>正善 | 1 | ２１ | 工場見学研修 |
| 児童心理 | 日名子 | 2 | ２２ | 国際交流基金見学 |
| 日本語を考える | 片山 | 3 | ２３ | スクーリング・オリエンテーション |
| 海外日本語教育 | 上原 | 2 | | |
| 教育機器 | 山口 | 2 | | |
| 全人教育論 | 石橋 | 2 | | |

第2期　　7月25日～8月25日

| 講義 | | | 見学研修・行事等 | |
|---|---|---|---|---|
| 講義名 | 担当教授 | 単位数 | 月日 | 事項 |
| 日本語児童教育 | 白鳥 | 2 | 7. 26 | 通大開講式 |
| 補助教材作成 | 正善 | 2 | 8. 4～6 | 学校劇夏期大学研修 |
| 口頭表現 | 河原崎 | 3 | 7 | MOA美術館見学 |
| 文型文法 | 藤田 | 3 | 16 | 通大祭前夜祭参加 |
| 視聴覚教育 | 河原崎 | 2 | 24 | 国際協力事業団中間報告会 |
| 日本語教授法 | 小峰 | 2 | 25 | 通大閉講式 |
| スクーリング（自由選択講義） | | | | |
| 国語．国語教材研究．日本教育史．教育心理．児童心理．音楽．体育リクリエーション指導．絵画．図工教材研究．習字．家庭教材研究経済学．等の中から4科目以上 | | | | |

第3期　　8月26日～9月16日

| | | |
|---|---|---|
| 郷里現場教育研修<br>郷里訪門．および郷里の小．中学校参観．教育実習並びに教職員との懇談等研修を8月29～9月7日迄の間実施（自主計画により）する。<br>報告書まとめ　　9月8日～9月12日 | 8. 26～28 | 関西研修旅行 |
| | 9. 8 | 学習研究社見学 |
| | 13 | インターナショナルスクール見学 |
| | 〃 | 玉川大学諸先生への謝恩会 |
| | 16 | 玉川大学終了式 |
| | 16 | 国際協力事業団閉講式 |

# 研 修 総 括 報 告 書

ブラジル国リオ・デ・ジャネイロ州ニテロイ市
ニテロイ日本語学校
富　永　由美子

1. 当初、研修に期待したこと

(1) 自己研磨の為、今迄勉強できなかったあらゆる教科。
特に児童心理学．教育心理学．国語教材等。

(2) 国語力の増強。

(3) 全人教育についての勉強、玉川学園の校風に触れること。
一人一人を尊重しそれにあった教育をすることについての全人教育論を深く研究すること。

(4) 博識な教授達と出来る限り多く接触することによって知識を吸収すること。

(5) 教師としての態度を学ぶこと。

(6) 歌．フォークダンス．折紙．指あそび等を数多くマスターすること。

(7) いろいろな学校を訪問し、教授法を習得すること。
日本語を外国語として教えている学校。
文部省のカリキュラムに添ってやっている学校。
全人教育を取り入れている学校。
海外帰国子女教育にあたっている学校。
外国人のための日語校。

(8) 同じ立場にある各国の日語教師と語り合うことによって自分の教授法の参考にしたいこと。

(9) 日本語を遊びながら楽しく教える為の教材と教具の発見と研究。

(10) 教育機器の使用法。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

(1) 全人教育に基づいた教育法を取り入れること。

(2) 体育レクリエーション活動で習得したこと。並びにキャンプ指導者初級免許証を受領したので、キャンプ活動、老人福祉の方でも活用したい。

(3) 二世教師の養成に力を入れること。

(4) 幼児教育に重点をおいた日本語教育。
遊びながら楽しく覚える日本語の指導。

(5) 「ありがとう」「ごめんなさい」の言える素直な子、他人を思いやるやさしい心を持つ子を育てるように努力すること。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 二世教師研修制度の確立

(2) 幼稚園、小学校、外国人のための日本語学校の見学回数の増大

(3) 授業時間数を増やす……勉強だけに専念できるこのチャンスを目一杯活用する為。現地授業研究にあまり時間をとられるのは惜しい。全人教育論、児童心理学、国語文法等をもっと勉強する必要あり。

(4) 研修生の人数・男女の比の再検討

あまり多いのもまとまりがないし、対人関係も難しい。

(5) 研修生の年令の最年長限度の低下

若い程強行スケジュールに耐え、やる気で勉強する。

(6) 関西旅行の時期は第1期に、……郷里研修と重なると荷物も多くなるし、気分的にも落かない。

(7) 郷里研修の時期の再検討（研修スケジュール終了後としたら三か月一杯勉強できる。郷里研修後は緊張感がうすれ、意欲低減になりやすい）

(8) 研修効果の向上

ⓐ 帰国後、定期的にレポート提出の義務

ⓑ 本邦研修生資格取得試験を現地にて実施の提案　教師の質向上のため

勉強したいという人が来なければ効果はあがらない（やる気で研修に望むため）

ⓒ 研修終了後中南米にてＯＢ大会を実施……活動状況報告と研究

ⓓ 一環として、中南米に教師養成校の設立、年1回のスクーリングの実施

(9) 通信教育制度確立（海外居住者に対する）を働きかけてくれること……資格取得の為

(10) 宿舎にもう少しの配慮を要望……プライバシー尊重の為、1人部屋が無理ならせめて衝立を。

机、洋服ロッカーは大きいものを。扇風機は1人1台。各階に電話（受信のみでよい）

4. 所　　感

三か月の研修も、もう終ろうとしている。

勉強だけに専念できたこの期間は夢のように幸せだった。

家族の協力と理解、受入側の国際協力事業団、玉川学園のお陰があったからこそと深く感謝している。特に、海外移住センターの江崎職員、玉川大学通信教育部の正善先生ご夫妻は、職務以上の真心こもった暖かいお心で私達に接して下さったことは、いろいろのことのあったこの三か月、私達の心のよりどころとなり、本当に有難かったと感謝している。

美しい緑にかこまれた広大な玉川学園、先生方の暖かいご指導、全力をもって生徒にあたる尊さに感激しながら、勉強のことだけを考えて生活できた毎日はとても充実した気持で、私にとって忘れることのできない貴重な体験だった。

体育レクでのキャンプ実習も楽しかった思い出の一つとなった。いろいろなことを習得した他に、年令差をこえた友情を育てることができたことも幸せだった。

センターでの藤田先生、河原崎先生、白鳥先生、小峰先生、正善多寿子先生の特別講義は、私達がすぐに役立つ実践的な授業で大変有意義だった。

習字の時間に正座するのが困難だったり、食事には、ナイフとフォークがでないので、歯でちぎることに抵抗を感じたり、おじぎだけの挨拶を不思議に感じたりするのも、やはり外地生活が長い由縁であろうと思った。あらゆる所で日本人の食事のマナー、生活のマナーの悪さ、そして子供のしつけの悪さを感じた。

大国である日本が、まず世界的になるには日本人をもっと世界的に教育する必要があるのではないかと思った。

現在大問題となっている少年の家出、校内暴力、家庭暴力、非行も小さい頃からの親子間のスキンシップ、先生、生徒間の心の通い合いがあれば解消される問題ではないだろうか。

3か月の研修は、またたく間に過ぎ去ってしまったという感じであるが、これ以上は又家庭をもつ身には不可能なことであろう。本邦研修だけでなく中南米での研修制度も確立したら近いこともありいろいろな面で素晴しい効果があがると確信している。

楽しいこと、つらかったこと、悲しかったこと、いろいろなことを折りまぜて、学業の面だけでなく精神的にも成長したように思う。他人を中傷することなく、皆が「ありがとう」「ごめんなさい」の効用を再認識し、素直な気持で他人のことを思いやる余裕をもてたらこの研修ももっと素晴しいものだったのではないかと思っている。宿舎にもう少しの配慮と帰国時の成田空港出立までの援助を考慮願えればと切実に思ったことである。

ブラジル国アマゾナス州マナウス郡
エフゼニオ・サーレス日語学校
木　場　克　子

1. 当初、研修に期待したこと

- 超複式授業のより効果的な教授法。
- 自己の教授法の正否を確める。
- 現地に於ける日本語の教育指導法。
- 現代日本の教授法とブラジル国の教授法との差を確める。
- 音楽、体育レクリエーションの指導法。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

現地のブラジル語学校の教師として１７年、日本語学校４年と、常に移住地の二・三世（私二世）と共に過して来ました。今日１つ疑問に思つていた事、「日本語学校にてブラジル語を使っての説明（特に難かしい言葉）は如何なるものか」を、今回の研修で解決出来、又、今日の日本の教育指導法・教師としての姿勢等、幅広く身に付ける事が出来ました。現地の小学校で特に乏しい課目（移住地の学校）である音楽・体育・図工等の研修を生かして、指導していく積りです。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

現地の各学校共、常に難問題があり、教師たちは暗中模索の中で努力していますので、この研修制度は、是非継続して頂きたいと思います。

この研修制度は疑心暗鬼でいる日語教師の私達に自信と夢を持って前進させてくださる大変有意義なものでありますから、出来ましたら来年度も（大多数（１０名）の）研修生を招待して頂きたいと思います。

人数が余り多すぎますと団体別れになる様ですので、１０名位が適当だと思います。

4．所　　感

○　今から３か月前の６月１７日、成田空港に到着し、荷物受取りの為、税関方面へと進行中エスカレータに足をかけようとしたところ、やさしい美声で「お足元にはお気を付け下さい。…」の（声に）放送に立ち止り、あたりを見回しましたら日本人の顔・顔・顔……で、あゝここは日本の国だったのだなーと、思い何とも、言えない気持ちでいっぱいでした。

○　第３期の出身地研修に母校の小学校を訪問の時は全校生に大歓迎され講堂にて校長先生の激励と賞讃のお言葉を受けた時には感謝感激で、胸があつくなる思いがしました。尚小学校、中学校、高校時代の級友が、緊急クラス会を次々に催して下さり、本当に懐しく楽しく師弟の区別なく大賑い時間の経つのも忘れて２５年～３０年の空白をうめました。

○　玉川学園での２か月間の研修におきましては諸先生方の人間味あふれる温い御指導のもとに数多くの課程を幅広く学ぶ事が出来ました。その心の灯を出来る丈、現地の児童の為に（もや）して頑張りたいと思います。３か月間、種々御指導御配慮下さいました、国際協力事業団の皆様、並びに玉川学園の諸先生方、事務長、国際室の方々に厚く御礼申し上げます。

最後に皆様方の御多幸と御繁栄をお祈りしつつ、ペンを留めさせて頂きます。

ブラジル国パラー州トメアス郡
トメアスー日本語学校
榎　　末　子

1、当初、研修に期待したこと

- 研修を通じて、あらゆる面での日本語の教授法の修得。
- 教師としての視野を広め日本の社会現情の認識。
- 日本の持つ伝統、文化等より多くの物を吸収すると。
- なるべく多くの小学校低学年の授業参観。
- 母国語、外国語の両面通じての日本語指導法。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

「大自然の大きな営みの中で人間は、生かされながら生きている。」

小原先生の御教訓を守り、広大アマゾンの大自然の中で、玉川大学を中心にして学び修得したもの。学校劇夏期大学での尊い経験と出身地研修の際の母校研修で学んだもの、又日常に於いての良き日本の伝統文化等を持ち帰り自分の地域のみに留まらずに、前回研修をされた諸先生方と共に、アマゾン地域全般に広げてゆきたいと思う。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 今回の研修生１４名は適した人数だと思う。これ以上多くなると意見のくい違い等でまとまりがつかない。又機敏な行動が出来ないと思う。この次もこの人数を基準にしてほしい。
- 第２期のスケジュールは時間的余裕が全く無くて、センターで行われた特別講義の先生も時間に切迫され、秒読みの授業であった為に質問等も出来なかった。

  この次からは量より質にしてほしい。

  電車の乗り継ぎに依っては、昼食抜きもしばしばあった。
- 夕食時間を６時にした為に、玉川を４時過ぎに出なければならなかったが、夕食は自由にした方が、玉川での勉強時間を延ばす事が出来ると思う。

4. 所　　感

未熟な年令でブラジルに移住した私は、日本文化、教育にも触れる機会も少なく、故に日本語教師になろうとは夢にも思いませんでした。

けれども常に前向きの姿勢は崩さずに、何かに向って前進を続けていました。

独学は非常に困難でしたが、それ丈に今回、本邦研修生として、勉強出来る機会を与えて下さっ

た事を心から感謝しています。

思いかえせば、此の移住センターに入所当時は名前と顔、国が一致せず環境も全く異った初対面者どうしが、どの様な生活をするのかと思いましたが、目指す目標はひとつ、日本語教育を伝承するための使命に燃える立場としては皆同じでした。

素晴しい緑の楽園、玉川の丘にふさわしい人間味あふるる諸先生の講義は私達の期待をはるかに越えたものでした。

スクーリングでは、今自分に一番必要としている、国語に関係あるものばかりを選択させて戴きました。

通大生と一緒の受講について行けるのかと一抹の不安を覚えましたが、諸先生方の素晴しい講義は、電流の如く、私の身体の内部までビリビリと伝ってきました。

結論として、日本語教育は、教科書を使って、単なる言葉の勉強ではなく、人と人との心の触れ合いに依つて生じるもの、教科書は子供を育てるために役立たせるもの。二重言語を持つ南米日系の子供達には、先ず人間造りからやらなければならないという事でした。

私達に与えられた今後の大きな課題として、よりいっそうの前進を続けてゆきたいと思います。

此の3か月間、私達のために、御指導、御配慮賜りました国際協力事業団の皆様、玉川学園の先生方、国際通信部の皆様、わざわざセンターまで出向いて講義をして下さった諸先生、本当に有難度うございました。

ブラジル国南マットグロッソ州ドウラードス市
共栄日語学校
城　田　志津子

1．当初、研修に期待したこと

当初ドウラードス市出発前1ケ月間、ドウラードス邊辺日語学校6校を訪問し現地に於ける日語教育の実情を調査し各校の教師の意見要望を聞き、更にビデオテープに収め編集した。各教師の研修に対する要望は次の通りとなる。

(1) 複式授業に於ける効果的指導法
　イ．母国語としての日本語
　ロ．外国語としての日本語
(2) 教材教具作成の研究
(3) 日本に於ける義務教育の実情
(4) 一般教養

上記の4項目は現在直面している問題である。個人的には、児童心理学、国語専等、一般教養を研修したいと思っていた。其の他、中南米各国より集まる教師から現地の日語教育の実情、及び指導法、並びに問題点の討議等、更にそれを専門家に指導して頂き、より現地に即した指導上の効果を期待した。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

現在ブラジルでは、移住型日語教育から、文化型、つまり外国語としての日本語教育へと変って来たが、我々が英語を習得した時と同じ気持で受けとめられないものがある。それは移民７０数年の苦闘の歴史と共に歩み今日に至った日語教育の変遷を省み、その上に立って時代の流れを見つめ、その実像をしっかりと、とらえた日語教育でなければならないと思う、今日、日本語教育の重要性が現地、マット、グロッソ州に於いても叫ばれ、父兄と教師とが一体となってその普及、推進に努力しているが果してその子弟はどうであろうかと考える時、父兄に強いられて通う日語学校でしかない。この様な実情の中で玉川大学で学んだ事は、生徒に好かれる教師、つまり生徒にとっておいしいリンゴでなければならないと言う事であった。生徒にとっては強いられた授業ではなく自からとび込んで行く授業でなくてはならない。そうさせるには、どうしたら良いのかを私は、僅かながら摑めたように思う。特に低学年の子供達には、楽しい遊びの中で日本語に親しんで行かせ度い。

言いかえれば詰め込み的な指導法から、肌で感じ吸収させる日本語指導を行い、それを通じて人格形成へ、又、国際人として活躍出来る礎としたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 本邦研修制度の継続実施及び研修員、特にサンパウロ地域の増員を望みます。

(2) 現地授研究の時間を１日当て、センター内で行って頂き度い。

(3) センター内での講義を１日当て時間的に有効、且つ、通学による疲労を休める日が週の中間に作って頂き度い。

(4) 夕食の時間が６時であった為に授業後、教授に質問したり御指導願う時間がなく残念であった。

(5) 帰国後研修員が一堂に会し研修の成果、又は、現地に於いての問題点等の討議の場があっても良いと思う。又その事が次期研修員への勧言となる。

(6) センターでの講義の各講師が外国での日語指導の経験が深くその経験を生かした講義であったので大変勉強になった。

4. 所　　感

教師として自信もなく基礎能力も持たない私が玉川大学の講義について行かれるのか、不安であった。その不安が初日の講義から除々に取り除かれた。

それは教師の一番の資格は教育に対する情熱と生徒に対する愛情だと言う諸先生のお言葉であった。　常日頃、私は教育とは教え、学ばせ、育てて行く事だと思っていた。しかし、その教え育てると云う言葉は使えても果して何を教え、何を育てるのか、その根底をなすものが何であるのか、分っていたのだろうかと今恥かしい限りである。

此の度の研修で学んだ事は、玉川大学に於ける全人教育であった。教育とは人間形成であると言

われながらともすれば教科本位の技術面に重点が置かれ、子供を知的存在としてのみ見て来たのではなかろうか、玉川で学んだ事は子供を知的存在と見るよりも全人的存在として認める事こそ教師にとって一番大切な事であると言う事であった。

現在、特に日本に於いては、知的教育が優先され過ぎる為か、その進度について行けない子供の登校拒否児と非行化が進み問題となっている。

どこの学校を訪ねても教育機器は揃い、教師の指導技術は著しく進歩した、しかし、それだけで教育が普及され、高度になったと言えるのだろうかと疑問に思う。こと教育となると技術ばかり先行しても、それを受けとめるものが即ち相手が人間であれば各人が異った感情を持ち、異った家庭環境で育っている。この育っている事が生命である。ましてや低学年の生徒は、人生にとって一番大切な時期である。それゆえに、人間が生きる事に関わりある授業でなければならないし、人間の生きて行く姿勢に必要な心構えを作っていく場でなければならない。それを教え、育てていくのが教師の仕事であると言う事を学んだ。

マット・グロッソの奥地で教材教具を求める事すら至難な環境にあって、教材、教具の不足、指導教師の皆無の中で試行錯誤をくり返していた私に、何か希望と自信が沸いて来る思いである。

玉川研修により教師としての姿勢を示された。ブラジルの大地にブラジルの伝統と誇りある歴史の中で大地にしっかりと足を踏まえて育って行く子供の為に、子供と共に国際人として活躍し得る道を拓き、私の可能な限り活動を続けこの研修の成果を挙げ度いと思います。

私に玉川大学研修の道を開けて下さった　国際協力事業団及び玉川大学国際部、並びに愛と情熱を注いで御指導下さいました諸先生に厚く御礼申し上げます。

ブラジル国サンパウロ州サンミゲール・アルカンジョ市
サンミゲール・アルカンジョ日本語学校
石　川　　勤

1. 当初、研修に期待したこと

1) 日本の現在の学校制度（内容）と運営（諸行事）等

2) 授業の内容で低学年の総合授業の方法それに基ずく施設教材等

3) 職業的教師の指導法、立場、自覚、生徒との環境

4) 教育の部門で現地での外語的指導、情操教育について

5) 進学期に対する生徒の勉強状態

6) 経済大国の日本が教育部門に対する方針

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

教育の基礎原点外国語としての要点、教職をプロとして心得、夏期通大生、同職場の豊富な経験談の語り合、現地（外国）を体験した講師の即実践出来る講義修得した知識を現地の大陸的な環境の異なる伯国に於いての利用度は教育者として未経験で不安状態が続いていた訪日前の気持と現在のプロとして自信を少なからず得た感動を続け生かす事にあると思います。

自己満足、研究心を怠るものはど危険な立場に立たされる研修の凡てをそして感動、体験を１人でも多くの先生に伝えるべく努力し、職場を一層充実したいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

研修は非常に厳しい強行軍だと先輩の言葉を聞えて来たのでそれなりの心構えで参加しましたが自分なり世話役として満足感に欠けた事を残念に思いせめて自己批判、体験の意味で教師として自信が持て、どんな形式でもよいから多くの先生に参加して教師として視野を広めていただきたい。

〔たまたま今回のような男性２名女性１２名のアンバランスは避けていただきたいと思います。
それなりに事業団と研修生のパイプ役の正善先生に迷惑をかけずに済むと思います。
中南米と地域が広いので生活そのものが違うのと性格差と云うか、団体行動が難しい内面的な問題があると思います。〕

事前に予備知識を得、横の連絡を取ればもっとスムースに行くのではないでしょうか、研修の課程ですが通大生との交流、親善のチャンスを多く持ち有効に生かしたいと思います。

正善先生にはより以上ご苦労をおかけ致しましたが現地授業研究を体力セーブの為移住センターに振り分け出来たらスケジュールが楽になると思います。

二世の方は増員すると思いますが一人でも多く研修に参加出来るようにお願い致します。

4. 所　　感

日本を離れてから母国を愛し尊敬して２７年過ぎ何かと疑問を持ち確実性を失いかけ急せった気持で、毎日が続いた。

７年前ある事情で日語の教職になって不安を胸に秘めたまま教壇に立ち、自分の歩む道を常に開拓し研究して来た。

今回本邦研修生に参加出来た事は胸一杯の不安が先に立った。事業団に依る海外移住センターの親切な受け入体制で安堵し、玉川学園にて研修を受ける時その環境と諸先生方の講義のすばらしく情熱のこもった指導ぶりにあった時初めて秘め続けていた不安も飛び散り、母国の教育熱心さと偉大さを知り頭が下がりこの機会を与えられた事に感動し目覚めた。授業にも視線を逸らさず一言一句に頭を動かし頷ずく研修生を引きつけるすばらしさに胸を打った。常に教師の立場を考え研究し

てこそプロだと自分を批判せざるをえない。この感動を胸に治め現地に帰ってから子供に教え父兄に説き伝え教職に励げんでいる先生方と語り合いスクラムの中から日語の発展性を得今回の研修の思い返が出来、貢献できるのではないかと思います。

日本の現状も多くの人と接することによって経済豊な国であることも知り国民全体が環境を造り生存競争に努力している姿を見た時人間社会の一つの尊敬すべき事があると信じます。

現地の不利な条件で生活又は教育に携さわっている私達を救いの手を与え諸先生方との今後の視野を与えてくれた国際協力事業団並びに玉川学園の諸先生方、現地の体験を、生かしてご指導下さった先生方に深く感謝します。

ブラジル国バイヤ州テイシェイラ・デ・フレイタス市
テイシェイラ日本語学校
羽　広　妙　子

1. 当初、研修に期待したこと

- 教師としての立場、姿勢はどうあるべきか、又巾広く見聞し、教養を高める事など。
- 日語教師である以上、日本の文化、現状、人々に触れ合い、人格をより一層みがき上げる事。
- これからの2・3世達への日語教育の望ましい指導法。
  情操教育の指導法等。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 玉川学園にて収穫得た全人教育の教訓を少しでも多く取り入れたい。
- 日本語は祖国の言語ではあるが、私達2・3世には今後も大いに関わりがあるので、強いるのでなく、子供達が自発的に喜んで学べる日本語教育の指導に努力して行きたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 3カ月間ものこの本邦研修制度は忙しい中にも大変感動的で有意義なものでしたが、もう少しゆとりのある小学校等の現場の参観をより多く望んだ次第でした。
- センター内での講義は大変リラックスした雰囲気で学習ができ現地の児童にもすぐ役立でることが出来る内容でしたが、スピード授業でやはり日数が少なかった事。
- センター内での朝のラヂオ体操は、出来れば全員揃って行って欲しかった。

4. 所　　感

初めて、実際的にこの目で観た日本、如何に少女時代からの憧れの国とは言えども、不安な気持

で旅立った事か。

「一度は日本へ行って見たい」と希望しては居りましたが、今回この望みが果され、神様からの賜わり物、国際協力事業団のお陰と感謝、感激そのものです。

お国が違えばすべても変わる環境に歩調を合わせて行かねばとこの3ケ月一心に学んだつもりです。

又この研修期間は玉川学園地中心に学ばせて頂ける事が私にとっては大きな期待でした。全人教育がモットーの学園、諸先生方の熱意ある講義、教師としての姿勢、態度、特に教育者としての、人間味を深く感じさせられました。

期間の中に含まれて居た見物、小旅行では歴史を語る日本の史跡、神社は印象的でした。

2期の夏期スクーリングでは日本全国の先生共々汗をふきふき学んだ事、楽しくリラックスした雰囲気で日本の各地方の人々との触れ会いも出来、伊豆長岡の夏期学校劇など本来の研修以外の貴重な体験も得ることが出来ました。

3期の関西及び郷里研修・初対面とは思えぬ程、温かく、身近かに感じた、親戚の方々、父母の若き日々を語って、寛いだ事も楽しい、深い想い出となりました。桜の花は見られなかったが、立山の残雪を手に取りその感覚を、味わって見た事。かるい地震、台風等も適当に日本の印象に色どりをそえるものでした。

本当にこの3カ月、長い様で夢の様に過ぎてしまい、戸惑う事も種々とありましたが、困難があってこそ、そこに進歩あり、私達を一層みがき上げてくれる事のみ、感謝のごとく受けた次第でした。国際協力事業団の皆様に心から感謝のお礼を申し上げます。

アルゼンティン国ブエノス・アイレス州モロン市
西部日本語学校
貝原 鬧子

1. 当初、研修に期待したこと

(1) 日本語の話せない2世・3世や外国人が増えて来ているのでこういう児童を対象にした日本語の指導法を習得したい

(2) 週1回成人講座を担当しているがスペイン語で説明した場合はスペイン語に頼りすぎて日本語会話が進歩しないとよくいわれます。日本語に依る、日語指導の方法を習得したい。

(3) 毎年教連主催で絵画コンクールがあり情操教育としても奨励されているので児童画の指導法も習得したい。

(4) 日本語のできない子の絵日記、作文の指導法を習いたい。

(5) 明日への授業に役立つ実技を習得したい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

(1) 日本語が話せない児童のため、日本語を楽しく学ぶという意味に於いて、玉大で習った新しい歌、音楽リズム、表現学習、ゲーム等を授業にとり入れたいと思う。

(2) 玉川で学んだ研修内容をアルゼンチン全国日本語教師研修会に発表し伝える。

(3) 研修旅行で日本の歴史的背景のあるものや近代的施設の整ったすばらしい所を見学でき、写真をとったり絵葉書を買ったりしたのでアルゼンチンに帰って日本を紹介したい。

(4) 寄贈して頂いたり自分で購入した教材や書籍や、筆記したノート、写真にとったりテープに入れたもの等をフルに活用して研修の成果を上げる様がんばりたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) アルゼンチンに於いては教連加盟の教師が５８名いますが今回も多くの教師が、本邦研修を希望され、２名選考されて参加させて頂きました。今後も益々希望者が増える見込みですので出来得れば来年からも研修員を２名以上に増員して頂きたく思います。

(2) 中南米日語教師が全員移住センター宿泊で通学したことは教師がそれぞれの国の国柄や教育事情も話し合え励まし合えたし通勤時間のラッシュアワーも避けてあったし通学時間の長いのは時間のロスだという声もあるが通学中の社会見学を通して日本の実情を知る上に大変有益であったと思います。

4. 所　　感

(1) 多摩丘陵にまたがる静浄爽快な地に約５３万㎡の校地を持つという緑にあふれた広大な自然に恵まれた玉川大学では幼稚部から大学に至る迄の一環教育の中に人間尊重、全人教育が行なわれており、幼稚部、小学校を見学致しました際、児童が伸び伸びと明るく元気よく、幼稚部から言葉使いやあいさつのしつけがしっかりとできており、小学校のお茶当番がお客様にお茶をすすめる時の礼儀作法等行き届いた教育を施されているのを大変素晴しいと思った。

(2) 人間尊重、全人教育理念を校風としている玉川学園だけに今回の研修では人間性豊かな熱意あふれる教授達に恵まれ３ケ月間楽しく勉強する事ができ３ケ月もある研修期間があっという間に過ぎ去った感が致します。

(3) 出身地研修の折、亀阜小学校（香川県）でＯ．Ｈ．Ｐ．を使った授業を行なっていた。

玉大の教育機器の時間に学んだ様に日本はいろんな種類の教育機器が普及していて矢張り、日本は、そういう面でも一歩進んだ教育国だと思った。

(4) 週１回成人講座を担当しているので外国人に日本語を教える場合に必要な文型文法の時間がもっとあったらよかったと思った。

(5) スクーリングの第２期で科目を選択することができ、自分の研究したい科目が勉強できてよか

ったと思いました。

アルゼンティン国ブエノスアイレス州フロレンシオバレーラ市
フロレンシオ・バレーラ日本語学校
佐　藤　富　美

1. 当初、研修に期待したこと

(1) 自己研磨の為、今迄勉強できなかったあらゆる教科、児童心理学、国語教材、音楽、美術等、上原教授、片山教授、日名子教授は特に期待して望んだ。

(2) 国語力の増強　玉川学園の校風に触れること。

(3) 各分野での造詣が深い教授に接触することによって知性を高め知識を高めること。

(4) 教師としての態度、教養を高めること。

(5) いろいろな学校を訪問し教授法を習得すること。

日本語を外国語として教えている学校
海外帰国子女教育にあたっている学校
外国人の為の日本語学校
文部省のカリキュラムにそっている学校（複式授業）
全人教育を取り入れている学校（幼童教育）
等参考にしたいこと。

(6) 日本語を日常生活と結びついた遊びながら楽しく教える為の教材と教具の発見と研究

(7) 教育機器の使用法

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

外国語として教える日本語ですので視、聴、触、味の感覚に於いて生きることに関りある国語をやっていく様に努力する。言葉はことであるという認識を新にして授業に望む。子供達の側に立った授業、常に褒める。音楽は心から楽しく皆んなで歌をうたう様にしていきたい。

研修で学んだ補助教材の作成と活用で研修で学んだ事を今後どの様に生かしていくかが大きな私への宿題であります。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

この研修制度は我々海外在住教師として有意義な制度であります。この制度を中絶することなく、これからも毎年継続して下さることを強く望みます。

今後も資格年令を制限しないで３ケ月の研修に耐え得る体力ならば参加させていただきたい。

２名ぐらい研修させて欲しいです。

スクーリング自由選択は非常に良かったと思います。センターでの授業は今後とも、続けていたゞきたいし時間のくり上げを望みます。玉川学園と研修生との、縁が切れない様に各教授の方が交替で中南米を巡って講義と視察（指導）をかねた方法をとり（１年置きにでも）より一層この制度の効果を上げて欲しい。ＯＢの集い。正善先生を中南米組担当にして下さった事は現地で指導教師としての経験がありますので我々が何を望んでいるかをよく理解でき適切な助言をしていたゞき、スクーリング選択に皆支障をきたさなかったことを有難く思いました。

夕食の時間をもう少し遅らせて欲しい（先生方との話し合い質問が出来ないのです。）

食事代の割りには、食事献立の内容が良くなかった。

特別授業の現地授業の時間を全人教育論、日本語教育、児童心理学、海外日本語教育、日本語を考える。その他に少し時間を廻して欲しい。

4．所　　感

３ケ月を無我夢中で過した感じです。基礎学習期間の講義は我々教師としての心構を認識させられました。幼児教育の大切さを教えられた。人間として幼児の時に培かわれていく教育、下まで降りていって教育しなくてはいけない。それぞれ持っているものを損わずに保ちながら育てなくてはいけない。幼児の生活の一番大切なのは遊びです。形の上だけを見ただけの教育はだめであり、２０年、３０年先のことを考えて教育、子供の身に合う様な教育、子供を常にまえむきに見ること、批判的に見る時子供ときれた時だと常に心に留め音楽で人と人とをつなぐことであり教育とは感じることだということです。幼児の生活の一番大切な遊びを一緒になって遊べる様になりたい。

この３ケ月の研修は私の人生の上ですばらしい一つの大きな節であり、今後の生活に深い影響を与えて下さいました。玉川大学の授業通大生とのキャンプでの対話、伊豆長岡での全国から集った先生方の出合い、玉川大学の専門分野で造詣深い教授の方々に接触して肌で吸収できる機会を与えて下さいました関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

パラグアイ国アスンシオン市
パラグアイ三育学院
山　　真美子

1．当初、研修に期待したこと

- 保育や日語教育に必要な教材・教具は何か。また、その作成購入を国でいかにすべきかを学ぶ。
- 幼稚園のカリキュラムを作成するための知識を得る。
- 新しい経験・知識を得、自分自身の視野を広くする。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 子供達の無邪気さ、夢の大きさを大切にし見習う教師となりたい。
- 玉川学園の授業や郷里研修に見学させていただいた幼稚園で学んだことをまとめ、現地に合った幼稚園のカリキュラムを作成したい。
- 他の先生方と協力し、現地にある物で教材を作成し、クラスに生かしていきたい。
- 玉川で学んだ歌やおどりを、クラスやキャンプに生かしていきたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 日本の教育の現状を知る上で、普通の公立の学校をもっと見学したかった。
- 今年はパラグアイから２人、この研修に参加させていただいたので、とても感謝しております。
  他の国々も２名以上づつで来られたら、帰国してから内容の濃い研修会になるでしょうし、もっと成果も上がると思う。
- 玉川スクーリングでの選択課目が良かったと思う。
  これからも続けていただきたい。
- 無理な要望とは思いますが、玉川大学でのすばらしい授業をより多く受けるため、宿舎を玉川大学の近くに、将来定めて下さったら有難いと思います。
  小原学長、先生も言っておられましたが、事業団で玉川に土地を購入していただいて宿舎をたてていただく……という事をお考え下さったら幸いですが……。
  よろしくお願いいたします。

4. 所　　感

日本へ帰りましてまず感じた事は「わずか３年間にもかかわらず日本もずいぶん変った」という事でした。（他の先生方は、もっと痛切にお感じになられたと思いますが……。）若者達の服装、電車の中での人々の表情・会話、増々便利になっている家庭生活、街角に立っているアイスクリームや袋菓子・切手などの自動販売器、校内暴力、家庭内暴力、パソコン、ロボットなど必ずしも進歩した面だけではありませんでしたが、日本の現状を知ることができ、母国に対する認識がまた新たにされた気がいたします。

この３年間、パラグアイにおきまして、幼稚園児や日本語学校の子どもたちと交わってきましたが、「現地に合ったカリキュラムの作成の必要」「教材教具をいかにするか」「子どもたちの秘めた才能を引き出す指導とは」ということについて最近、特に考えるようになり、そんな時、この研修に参加することが決まり、夢の様でした。

この３ケ月間研修してきましたが、特に玉川大学にての実践を伴った講義をして下さった先生方からは、「教師のあり方」というものを教えていただきました。それは「知識や技を磨く事にも勝

って、子どもと向き合う時の「心を磨く」ということだと思いました。「子どもを１人の人間として認め、前向きに見る」「子どものきれいな心を尊敬する」ことなど全く自信はありませんが、心にいつも留められる様に努力したいと思います。また指導法での具体的な技術としては、教材を身近な物で作り、効果的に用いることと、リクリエーションで子供たちの心を時々ほぐしてあげること、また特に幼稚園においては環境作りということを心がけたいと思いました。

この有意義な研修を支えて下さった、国際協力事業団の方々をはじめ玉川大学の先生方また具体的な指導法を教えるためセンターに通って下さった講師の先生方また研修教師の先生方、どうもありがとうございました。

パラグアイ国イタプア県エンカルナシオン市
エンカルナシオン日本語学校
小　田　俊　春

1. 当初、研修に期待したこと

- 日本語をどの様な形でとらえれば外国に住む子供達にうまく伝えることができるか、その技術的習得。
- 教師としての姿勢はどうあるべきか
- 教材、教具の作成
- 学校と父兄とのつながりはどの様な形でなされているのか又どの様な形になるべきか等。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 子供に対する教える側の心構えをしっかり把握し心の通じあった教育ができるようにしたい。
- 技術的には幅のある指導法（玉川大学、研修センターで学んだ）を取り入れ色々な角度から教えてみたい。
- 父兄に対し外国に於ける日本語教育とはどう言う形であるべきかを時間の許すかぎり話し合って行きたい。
- 適宜使用できる教材の入手方法を考えて光村の教科書だけでなく色々と取り入れてやってみたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 大変すばらしい研修です。１人でも多くの人が研修できます様今後も継続して欲しい。
- 今年度とられたサマースクーリングでの選たく科目制度はそれぞれの地域にあわせた自分に必要とする学科が研修出来るのでできれば研修に出発する前に参考文献等送付願えるならベクーだ

と思います。

- 欲を言えば各国（と言ってもブラジルは範囲が広くて別かくと思う）
  2名位研修させて、いただければ現地に帰ってからの報告会等に実技指導を行う場合、1人よりはより正確な実演等ができて効果があると思われます。
- 他の学校への授業参観の時間をもっと取って欲しい。
- 現地からの必要とする教材の入手に対するあっせん方。

4. 所　　感

日本語の本邦研修生としてパラグアイから来まして一番とまどいを感じたことは、私にとって日本と言う国は故郷であることの感激が一汐であるにも拘らず、26年間のパラグアイ生活は外国まして後進国の生活サイクルにすっかり慣らされておりこんな私に日本の生活のサイクルが急になじめる訳もなくセンターの人達に迷惑をかけたことでした。一時はもう少しやさしく教えて欲しいと思ったりもしたことがありました。でもこれも日本の国なんだと自分に言い聞かせて自分なりに頑張りました。そんな中で江崎職員の親切かつ適切なアドバイスには感謝致しております。同じ日本人でありながら性格的な違いからか外国から来たと言うことで冷く感じさせられることも多々あった様に感じられ残念です。

研修の内容そのものはすでに5回目と言うことで全てに気配りがしてあり充実した研修ができたこと嬉しく思います。夏期スクーリング中の午前中のセンター内での講義は的を得ており即戦力として日語の指導に応用できることに自信をつけることができました。

玉川学園での研修は言うまでもなく充実したものであり少しでも多くパラグアイの子供達に教えたいし、それにもまして教える側の人間の質の問題に（個人的なもの）胸をつかれ増々難かしさを感じています。

二重言語の確立にファイトを燃して種々自分なりに勉強をさせていただきましたが、これからの移住における第一にかかげられる大きな問題点とされる程難かしい問題であることに恐わさを感じながら何んとか確立させるべく努力する所存です。第一に一世である親達に日本語を教えることがどう言うものであるかと言うことをわかって欲しいこと、そこからバイリンガルの確立が始まることを信じて頑張ることを約束して所感とします。

最後にまったく何にもわからない私達に研修を通じて種々御世話下さいました事業団の皆様に感謝の意を表します。

ボリヴィア国サンタクルス州イチロ郡
サンファン日語校
二階堂　麟子

1. 当初、研修に期待したこと

- 教師としての視野を広めたい。
- 日本語の時間を、生徒が楽しく効果的にすごす方法を知りたい。
- 楽器がなくても楽しくうたをうたうには。充分な材料がなくても、楽しい製作の方法、などを知りたい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 日本語教育と云っても、教室で一斉に読ませたりすることばかりではないと云うことを、色々な講義を受けているうちに知らされたので、生徒が興味を持つような方法（音楽・体育・絵画など）で、その中から自然に言葉をおぼえていくような楽しい時間をつくりたい。
- 表面だけの言葉（日本語）を教えるのでなく、玉川で受けた全人教育をつたえて、こころのあることばをつかえる人になるよう願いつつ、自分自身も、そうあるよう努力したい。
- 教材を手造りすることに時間を惜しまず、生徒にも創り出すよろこびをつたえたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- この研修制度は続けていただきたい。
- 中南米研修生のＯＢ会を中南米で、隔年でもよいから予算を計上して実現させてほしい。
- 幼稚園、小学校の見学（特に複式のところ・僻地校）をもう少し増やしてほしいと思う。
- 夏期スクーリングの科目を自由に選択出来たのはよかったので、このまま続けてはどうか。
- センターでの講義と、玉川学園での講義が一日のうちにいっしょにするのは、時間的にあわただしすぎるので、別にしていただきたい。
- 夕食時間６時、門限１０時をもう少し延ばして余裕をもたせてほしい。

4. 所　　感

６月１７日、成田からセンターへむかうバスが動ごき出してまもなく、だれかが『ワーォ日本人がいっぱい!! 』と歓声をあげたのを昨日聴いたように耳に残っていますのに、あれから３ケ月がすぎたなど、とても思えないような気がしています。

人ごみ・階段・電車・人ごみ……を、くりかえし乍ら玉川学園へ入ると、木々のみどりと、さわやかな陽かげが、よごれた空気をふりはらってくれるようでホッとしたものでした。

研修とは云え、大学の講義が理解出来るかどうか心配でしたが、なんとかみんなのあとからついて来れたのは、玉川の先生方、センターでの講師の方々の中南米研修クラスへの特別なご配慮があったから、と思い感謝です。

あとは、帰ってから必死にメモしたノートを見ながら、それを自分のものにして子供たちと接していきたいと思っております。

また外国人がいっぱいの中（吾々が外国人になるのですが。）へ帰りますが、外国に住む日本人として、少しでも日本の良いところを伝えることの出来る真の日本人であるよう努力したいと思っております。

ドミニカ国サント・ドミンゴ市
サント・ドミンゴ日本語学校
小　松　和　恵

1. 当初、研修に期待したこと

(1) 複式授業をより効果的に、又楽しくやる方法。

(2) 中南米の他の国の先生方がやっていること、悩まれていること、又それに対して、どんな対策をたてているか。

(3) 日本の習慣や文化を知ること。

(4) 日本の教育法（教育目標、授業計画、評価のしかたなど）を学ぶこと。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この3ケ月の研修で学んだ事をいったいどれだけ活用できるかわかりませんが、とにかく≪子供達と共に学び、子供達と共に成長する≫を心がけて頑張りたいと思う。

まだ日本をぜんぜん知らない私と同じ二世の子供達に日本の事を、学んだ事を、少しでも多く教えて上げたいと思う。又楽しい学校造りに努力したい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 3ケ月の短期間ですが、この研修制度は各参加者にとって非常に参考になるので今後ともぜひ続けてほしいと思う。

(2) もっと色々な学校を参観して比較したかった。

(3) 小旅行の場合、あまりにもお寺巡りが多かったんではと思う。できれば、お城巡りもプログラムに入れてほしい。

(4) センターで行なわれた特別講義は現地ですぐに応用できる物があるのでこれも今後続けてほし

いと思う。

5. 玉川のスクーリング科目の自由選択をこれからも続けてほしい。

4. 所　　感

二世である私が、日本を見て、日本の生活に、いったいどんな反応を示すのだろうと、われながら心配したものでしたが、自分でも驚くほどすんなりと日本の生活に馴じむことが出来、うれしかったです。

玉川ではいろんな面から「教育とは」「教師とは」、又「人間としてどう生きるか」などを先生方の人間味あふれるお人柄や人生観から学ぶことが出来ました。

長いようで短かかった3ケ月間。スケジュールびっしりの研修でしたが、まだあれもやりたかった、これもやりたかったの思いです。

この3ケ月の研修は私にとって、大変プラスになりました。人間として、少しは成長したように感じます。

こんなチャンスを与えて下さったJICAの方々、又、玉川学園の先生方や国際教育室の方々、心からお礼申し上げます。

ペルー国リマ市
ラ・ウニオン総合学校
村　上　みさお

1. 当初、研修に期待したこと

o 祖先の国を直接見て知ること。

o 日本語を伝える真の意義をたしかめる。

日本人の日常生活や言語活動の実態、又教育理念、姿勢など見聞することによって、今日の日本がどんな土台から出来上がっているか知りたい。

日本の小学校の実状と現職の教師方の意見や姿勢を見聞させて頂きたい。

多勢の日本人の方と話し合ってみたい、などでした。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

児童に対して

日系人にふさわしい出生国と祖先の国とのよい面を有する社会人となるお伝いをしたいと思います。

成人に対して

見たり聞いたりしたことは、狭く、小さいのですが、出来るだけ日本の様子を伝え、国の発展の

為にも日本を手本とすることが多々あることをもっと理解してもらえるよう、日本語のより巾の広い普及に努力したいと思っております。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

百聞は一見に如かずということを身を以って知りました。

今後共是非多くの先生方を研修に来させて頂きたいと思います。

研修については、日本で教育を受けた人、又は外国生れ、育ちであってもある程度日本語の分る者でしたら此の3ケ月のスケジュールで非常によい勉強が出来るし、出来たと思っております。

併し将来、日本語教師を志す若い人々で日本語が今一歩というような二・三世の場合ですと、もう少し、じっくりと時間をかけた勉強が出来たらと望みます。

南米の現地では、日本で教育を受けた人と現地出身の人とが力を合せると、理想的ではないかと思います。　それで、新人養成コースをもっと進めて頂きたいと思っております。

4. 所　　感

此の度は、長い間憧れていた祖先の国を直接に知ることが出来まして、いろいろ勉強させて頂きまして、本当に有難うございました。

毎日が張りつめた研修の日々もいよいよ明日で終了、無事に　りつけた喜びと名残り惜しさで今一杯です。玉川での第1期の特別講義ではお一人お一人、個性の異る先生方から色々な視点からの御指導を頂き、教育の意義、原点といったものを教えて頂きました。

子供達に内在している無限の可能性、明日の世界をになう子供達の尊さを改めて感じました。

そしてその子供達の可能性、個性を引き出し、伸ばす手伝いをする仕事の喜びと責任の重さを感じております。

第2期の通信大夏期スクーリングでは、日本教育史、国語としての日本語、それに青年前期の難しい年頃の中学生を理解する為の青年心理学などを聴講出来たことは今までの悩みに灯りをつけて頂いたような気がしております。

東京、鎌倉、奈良、京都などの旅行では由緒深い歴史の跡を偲び、又日本の田舎の自然にも触れることが出来ました。

田舎の父の母校研修では朝礼から職員会議まで先生方と一日を伴にして、授業も自由に参観させて頂いて、いろいろ学ばせて頂きました。

玉川小学部でも、大泉学園でもそうでしたが、此の田舎でも生徒達が、キビキビと校舎の掃除にいそしむ姿に感動を覚えました。そして同じように日本の教員方はあらゆる課目をこなされ、実力のある方々ばかりなのがすばらしいと思いました。

唯少し残念なのは見学した学校はとても良い学校ばかりで、現実に問題を抱えているという、中

学校、高校を見学する機会が得られなかったことでしたが、センターでの千葉、栃木から来ていた高校生達を見て、此の学生達は真面目な人達でしたが、大体高校生達の様子がわかり、若者は、国は異っても共通点があるとわかりました。

私達が着きました時は歓迎会、そして今終るにあたっては送別会までして下さいまして、又センター内では所長さん始め皆様に親切にして頂き、本当に有難うございました。

今帰国を5日後に控えて御一同様の御健康と日本国の益々の繁栄を心からお祈り申上げます。

ペルー国リマ市
ペルー中央日本人会文化部日本語講習会
東恩納　弘　美

1．当初、研修に期待したこと

(1) 先ず、3ケ月間実際に日本で生活し、生きた日本語を毎日使いながら勉強出来ること。

(2) 良き日本語教師になる為に、日本の国を内面から見て、観察し、日本人社会についてできるだけ知ること。

(3) 日本のすぐれた教育制度には以前から関心を持っていましたのでその現場で勉強出来ることをとても幸運だと思って期待していました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

(1) 今まで教師の意識をあまり持たないで「日本語」だけを教えていたのを反省しています。
もっと、教育について勉強し、有能な先生になりたいと、思います。

(2) リトミック、音楽リズム、体育レクで覚えた歌やゲーム、手あそびなどを多く取り入れて、楽しい、明るい雰囲気のクラスを作りたいと思います。

(3) 特に玉川の音楽に感動した私は、音楽を通じて、日本人の感じ方、物事のとらえ方をペルーの学生に少しでも分らせたいと強く思っています。

(4) この3ケ月間の研修で教わった多くのことを出来るだけ無駄にしないように、帰ったらすぐ実現して行きたいと思います。又、何年間たってもこの経験の印象が薄くならないように、今度から玉川へ研修に来られる先生方からも学び続けたいと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 3ケ月間、勉強だけを目的に、というチャンスは中々ありませんし、又、玉川で学ぶことは、教育について強い刺激を受けるということになりますので、今後も是非この研修に数多くの先生方を参加させていただきたいと思います。

(2) 研修の第２期に、センターで受けた特別講義はとてもよかったと思います。中南米の事情をよく御存じの先生方の指導はすぐに現地で応用出来る教授方で、今後の研修プログラムにも入れてほしいと思います。

(3) ペルーの様に、日本語を外国語として教えられている所の先生方の為に国際学友会日本語学校の授業参観を増してほしいと思いました。

4．所　　感

数年間かかって、リマの日秘文化会館で日本語を習って来た私は、まだ未熟な日本語のままで、教える立場になり、出来れば短期間でも、本場で生きた言葉をマスターしたいというのが一番の希望でした。それで、５８年度の日語教師研修生に決まった、と知らされた時、その願いがかなえられるという喜びと同時に、研修への不安を感じました。３ケ月間、日本での団体生活についていけるだろうか、大学の講義を理解出来るだろうか、又、他の先生方についていけるだろうかと考えては心配していました。でも先輩の先生方に励まされて、自分の為にも、二度とないこのすばらしいチャンスを有効に利用しようと思い直した時、すべての不安がふきとんで行き、リマを出発する頃は、ただ研修への期待だけで心がはずんでいました。

さて、この研修に参加して、玉川大学で学ぶと、自分の考えていた「日本語、又日本の社会と文化について学ぶ」ということだけではなく、もっと広い意味での勉強、つまり「人間について」というテーマを学べた気がします。

玉川の先生方からは、どういう教材を使うこととか、又、どんな教授法よりも、先生の人間性が大切であることをつくづく考えさせられました。

この３ケ月間の短い期間で学んだことは私にとって一生忘れられないことだろうと思います。

期待以上に勉強する事が出来て、とても充実した研修になりました。

この機会を与えて下さった事業団の皆様、そして、玉川学園の先生方や国際教育室の方々に心からお礼申し上げます。

# 研　修　日　誌

# 第５回現地日本語教師本邦研修日誌

## 第１日　６月１７日　金曜日　小雨

ロスの空港より１名胸に付けた国際協力事業団よりの名札を目印にヴァリグ８３２便に乗り込んだ現地日語教師本邦研修生を加え１４名を確め、日付変更線を意識してか日中が重長く感じ時間を持て余し体をやたらに動かし着陸を待った。

懐かし郷土の山河の見える頃は着陸予定時間は過ぎていた。

重い手荷物を相互励ましあって入国手続き、そしてコンベヤーの荷物を確め荷車に載せ、今年度の児童展の３箇も２台押し乍ら無税の通関に向った。

税関員がパスポートを見てブラジルからですね御苦労さん箱結の一つを見せて下さいと個人の荷物は見ることもなく無事通過安心して次はと立止っているとマークを目じるしに国際協力事業団の加藤職員の出迎えで挨拶もそこそこ貸切バスに乗り小雨の中を横浜の海外移住センターに向いました。

個人的な出迎えは僅かでしたが感激だった。約２時間位で移住センターに着き江崎職員の部屋分けセンター内の生活の諸規則を説明され、各自旅装を解いた。加藤職員の御苦労に感謝し特に江崎様には手荷物の持運びまでお手伝い世話下され頭が下がりました。

石川　記

## 第２日　６月１８日　土曜日　雨のち晴

長い旅の疲れか、元気のない顔の先生もいらっしゃる時差ぼけか夜中に目が覚めて２時間位しか眠れない、身体がまだ飛行機に乗っている様だ、朝食後、私達のお世話をして下さる江崎氏より入所心得の説明を受ける全員、やや緊張気味であったが、江崎氏の暖い目差しユーモアにあふれるお話に、すっかり心も落ち着き、これからの３ケ月を父とも兄とも頼れるお方だと思った。（江崎氏にちょっと失礼ですがごめんなさい）、続いて、そして研修日程の説明が加藤職員からある、山本課長の挨拶があり、預金通帳を受け取る。

最後に団長、副団長を選出し、石川先生団長、私が副団長となる経験も学歴も多い他の諸先生がいらっしゃるのに、私の様な者が、これからどうして行くのかと思うとすごく心配になって来た。

しかし、自分の為の勉強だと思って引き受けるかどうか、これからの３ケ月を無事に楽しく過せます様に、どうぞ宜しく御願いいたします。

江崎氏より玉川学園への駅順をくわしく教えて頂くがさっぱり分らない。当分、諸先生の後にしっかりとついて行くつもりだ。１１時半より、大和銀行へ全員揃って出かける、全員お金を少々引き出し、定期券を買う。

午后、自由行動となり、各々友人、親せきを訪ねたり、面会の方も多く、ロビーは大変賑かだった。

ひっきりなしの電話に３階までの階段をいく度もかけ下り、かけ上る先生、さぞかし美容に良い事

だろうと眺めている間に三重大学に留学している息子が迎えに来て、兄の家へ連れて行ってもらう。とに角、今は西も東も分らないのでおとなしく息子に従う事にする。

横浜の根岸の駅の階段を今日より昇り、学ぶ３月か

城田　記

第３日　　６月１９日　　日曜日　　曇

ふと眼が覚めた、飛び起き手探りで電気をと思い辺りをがさがさどうも勝手が違う、同室の小田先生（パ国）がびっくりして、どうしたとの声再度びっくり眼をこすり、時計を見ると夜中の２時を少し廻った所だ“時差ボケ”とはこんな事かと苦笑して床にもぐるでも寝むれずブラジルの事をうとうと頭に浮かんだ夢のように、これからの研修のことも。７時半頃横浜に住む弟より電話が来て外出の用意、各先生方も電話なり面会で右往左往と落ちつかず。不安顔は当分続きそう、弟の云う事は信じられないの連続、午後１０時門限に帰える。

久方の横浜の町移り変りに目をこすり

石川　記

第４日　　６月２０日　　月曜日　　晴のち曇

連日の睡眠不足にもかかわらず全員早朝に起床し、７時５０分からのラジオ体操に参加、女性軍なかなか元気溌剌、運動場を２～３回かけ足して体操にのぞむ。

９時２５分センター出発江崎職員に案内され、事業団本部を表敬訪問する。

１１時３０分、本部４８階に於いて北村部長の挨拶の後、各教師の自己紹介、続いて懇談会に入る。最初は緊張して無口であった諸先生、懇談会中に出された昼食の幕の内弁当と暖いおふくろの味たっぷりの味噌汁にやっと気も落ち着き、状況説明や、本部への要求などで白熱化した。

１時３０分、国内事業課長鎬木氏が後日センターを訪ねて懇談の機会を持つと云う事で解散。

２時、買物組と別れて私達は江崎職員に連れられてセンターに帰る。地理にかけては、幼児に劣る私達、江崎職員の御苦労も大変なものだ根岸駅に着く頃は、小雨が降っていた。

６時３０分、センターに於いて、私達中南米教師の為に歓迎会をして下さるセンター職員全員及びカナダ、オーストラリアへの移住者６名と共に飲み、歌い大変楽しい夜となった。

９時４０分解散、しかし、その興奮覚めやらず各室からは、当分明るい笑い声が聞える。こんなに開放された夜も今夜だけ、明日からはいよいよ勉強が始まるのだ。そう思うとやはり今夜のこの楽しい雰囲気を１分でも大切にしたい、でも心の片隅で父の死顔に別れを告げただけで出発した事を申し訳けなくもなり悲しくもなった昨日が初７日だったナと思いながら瞑目して１１時就寝。

城田　記

## 第５日　　６月２１日　　火曜日　　雨のち晴れ

今日は、いよいよ玉川学園訪問の日だ。服装を整えて…、玉川のバッジをつけて…、ハンカチを持って…、さあ用意万端!!……と思いきや生憎の雨。予定表の「学園案内（９：００～１０：３０）」が抜け、出発は９時３０分。（正確には９時５５分）山本総務課長の引率で、日語教師一同、傘をお供に玉川へ。

小田急線の玉川学園前駅では、Ｊ．Ｉ．Ｃ．Ａ本部から鏑木課長が…、また学園の正門前では、正善先生、吉成先生（国際教育室）がお出迎えして下さいました。それから正善先生、吉成先生の案内で、桜並木を抜け緑の丘へ。

赤い丸屋根の幼稚部を過ぎ、石段にさしかかる頃、辺りを見まわしておられた二階堂先生、「やっぱり南米のうっそうとした感じと違うわねえ」空を見上げておられた城田先生「ほんとですねえ。笹の茂り、葉の柔らかさかしら。明るいですねえ。」と感慨深気……。「坂を登りきると、そこは朔風館食堂だった」（この場所は、すぐ脳裏にきざみこんで……）そして、そのすぐ横には、達筆で、会窓同　と右から書いてあるカンバンのかかげられた、同窓会談話室があり、一寸休息。その後文学部第２校舎の２０１号室にて、玉川大学のおもてなしを受けた。カラフルなさいころを織り込んだ壁かけや、静かで力強い人物画のあるそのお部屋には、歓迎昼食会の準備がされていて、これから御自分のクラスの外にわざわざ私たちのために教えて下さる先生方の紹介があった。少々緊張気味の私たちに御自分の方から話しかけて下さる目のやさしい先生ばかりだ。（どうぞよろしくお願いいたします）。その後、「体の病は健康院!!」「心の病は礼拝堂!!」「精神清閑、咸宜園（習字）!!」松下村塾、女子短大等の案内を受け，小学部（下校時でブクブク太った元気そうな子供たちが飛び出して来ていました）、中学部（なつかしい木造平屋でした）、を回り、横浜市６丁目に位置するという農学部を左下に見おろし、

神なき知育は知恵なき悪魔をつくることなり　　国芳

と入口に書かれた工学部、２階の学長室（二会議室）では、玉川学園の教育の映画を見せていただいた。５６万平方メートルという広大な敷地を持つこの学園は「幼稚園から大学まで」の総合大学で、この学園では「知識の量よりも自ら学びとる力を」養うことを目標としているそうだ。これは大切なことなので忘れないようにしようとノートにきざむ。

最後に学長にあいさつにうかがった。学長は「言葉を通して意志を伝える」ということ、また「日本語の背景にあります文化や歴史を学んでもらいたい」と話して下さった。今日は、いろいろありがとうございました。

山　記

第６日　　６月２２日　　水曜日

教室へ入っての研修は今日から始まった。

中南米研修クラスの担任？　正善先生と教室でお会いする初日。正善先生は南米には何度も行かれ、現地のことには色々とくわしく知っておられるようだ。

今日は、現地のことを話し合い、各々が各々から得るものがあるように話し合うプログラムの最初なので、アンケートを書いたり、まとめたり、説明があったりで、時間はまたたくまにすぎてしまった。初めて玉川大学の学生にまじって、食堂で並んで食券を買ったり、学生と同じテーブルについて食事をしたりして、学生時代に戻ったような、だが、どこか勝手が違う思いをしながら一日をすごした。帰りは、三三五五、まだおぼえたばかりの駅名をいっしょうけんめい思い出しながら、電車を乗りついでセンターへ。根岸のホームへ降りたらホーッとした気持になる。

東恩納　記

第７日　　６月２３日　　木曜日　　小雨

今日も朝から小雨。なんとなく寒々としている。

午前中、授業がなかったので、町田で降りてそれぞれ買物をしたり見物したり。

午后の授業は、体育レクリエーション指導、石井先生のユーモアあふれる話は、いちいちもっともなことで、今さらあらためて聞かなくてもわかっているはずのことなのに、ひとつひとつがビンビンとひびいてくるようなことばかりで、楽しい授業で笑いながらもシーンと考えさせられることが多かった。先生だって生徒だって同じ人の子、ただ先生は何年か先に生まれたにすぎないのだ。

色々なあそびを、いっしょに身体を動ごかして教えていただいた中に指あそびもある。

両手の指を、云われたように動ごかそうと思っても、思うように動ごいてくれない。

"自分の指でさえ、思うように動ごかせないのに、人の子を思うように動ごかそうと思うのは無理なこと"。と云われたことが耳に残っている。

二階堂　記

第８日　　６月２４日　　金曜日　　雨後晴れ

朝から、しとしとと小雨煙る中をセンターの傘を借用して８時３０分出発。途中玉川学園前駅近くの購売部でカセットテープや筆記用具を買い求める先生もあった。玉川学園の校門を入り左右の丘のあじさいやつつじの残花が今朝の雨に生気を取り戻し一際色鮮やかに見える坂道を登り、第１時限目１０時４０分よりの永井先生の体操の授業へ急ぐ。

- 体操は課定があってその子の年令に合わせて指導していくことが大切である。その基本になる指導法、実技を教えて頂く。
- 輪になって曲に合わせて走る。リズム感を育てる。

○　ボールを使った運動。

スキップでボールをけっていく、ボールを上に投げて背中で受け取る。２人が背中合わせになり２つのボールを背中とお尻において落とさない様に２人で立ち上り坐る。簡単な様でなかなかむずかしい、５０分の休憩時間内で食堂で食券を買い昼食をとる。

第２時限目、１３時より小野先生のリトミック。

○　先ず開放するために４つの質問を各自５人の先生にする。

○　次に集中する、目をつぶって外の音を聞く、イメージを膨らましてお話を作る。

○　導入として汽車の踊りをする。

○　音符の早さをお話の中の動作で教える。

○　速度を使う踊りを曲に合わせてやる。

○　リズムストーリーを作る。

第１時限、２時限共、身体をフルに動かす実技で今日は心身共によく鍛えられた。

第３時限目、１４時４０分正善先生の現地授業研究

先づ石井先生の体育レクリェーション指導に就いての先生達の感想発表、次に富永先生のレポートに就いて先生達の感想発表の後、正善先生の講義始まる。

○　子供は遊び乍ら楽しく日本語を学ばねばならない。

○　教師は父兄に期待される様な授業をしなければならない。

○　日語教育は、親、子供、先生が一体となること。

○　日本語教育の必要性を確立しなければならない。

（玉川教師訓）

1. 子供に親しまれよ。
2. 親に尊敬されよ。
3. 同僚に愛されよ。
4. 校長に信頼されよ。

最後に正善先生より各先生に、クリスマスのプレゼントが配付された。さて、中身の手紙を読み上げると、１０日毎に短歌を作って提出して下さいとある。いつもユーモアたっぷりの正善先生!!

３年前に来アされた頃とひとつもお変りなく、明るく、お若いお人柄である。

貝原　記

## 第９日　　６月２５日　　土曜日　　晴れ　２１℃

朝、目を覚ましたら（ＡＭ７：２０）、同室の富永先生「母に会いに行って来ます」　と書いた、BiLHETE を私の机において出掛けた後でした。御免ナサイ！私、寝過してしまって。！

今日は久し振りの晴天なり！

１３：００より玉川学園中学部の合唱祭の為、１２：４０分本厚木駅前集合との事。全員（富永先生を除く）９：３０分センター出発し、それぞれ集合時間まで、あっちこっちに散って買物……？

１２：４０分本厚木駅前に集合し揃って文化会館へ。１３：３２分いよいよ１９８３年度玉川学園中学部合唱祭（開催）ハンドベル部、ファンファール（珍らしい……）。引き続き「若人のうた」、「丘にのぼれば」の２曲を全員で合唱、私３０年前、両親に連れられ、日本を訪れ滞在中、学んだ青森市立浪打中学校を想い出し、私もこういう時代があったのだなーと muito saudade（なつかしい）で……がいっぱい！とても筆では表現出来ない素晴らしさ……で感激。１年生、２年生、３年生の発表。その学年に依って、それぞれ立派な姿勢と行動には全く、沢山の事を学ばされた。此の玉川学園の生徒の半分でも良いですから、此の姿勢及び行動を、伯国アマゾナス州マナウスへ帰ってから教えなければ……とつくづく思った。

合唱祭、最後には生徒は勿論の事、父兄、並びに招待客全員不動の姿勢で玉川学園校歌を合唱し、「歌の祭典」は終りました。

合唱祭観賞に当り、感じた事は「生徒は、明るく、楽しく、健康的である」と云うことです。

人格形成の仕上げは音楽にあると言う言葉を忘れない様にしましようーーネ。研修生一同の皆さん。

１５：４０分合唱祭終了後、皆さん何人かずつに別れ、自由行動。私も義兄の待つ（同じ移住地より一足先に訪日している）成城学園前まで１人旅！少し不安であったが約一時間後到着。義兄の顔、見てヤレヤレとホット安心、夕食御馳走になりセンターに送っていただいたらＰＭ：9.３０分。

本日は本当に楽しい１日でした。

木場　記

## 第１０日　６月２６日　日曜日　雨

日本に到着以来２回目の日曜日を迎える。

昨日の玉川学園中学部の合唱祭のあのすばらしい演奏の余韻醒めやらぬ内、それぞれ各人、知人、友人あるいは親戚を訪ねセンターを出かけて行かれる。

各々が日本の空気にも馴染み行動範囲が広くなって来た様だ。雨はあいかわらず降ったり止んだり本当に梅雨の真っただなかと言った感じ、夜の門限までには帰館され明日からの勉強に備えられている気配、今日は特筆すべきことなし。

小田　記

## 第１１日　６月２７日　月曜日　雨後くもり

移住センターの三階の窓。奥ゆかしくも二重カーテンをさっと引いて、未だ醒めやらぬ街を見下す。

我々研修生の日課はここから始まる。「今朝は」と見ると、五月雨とは言い難い六月の雨がしとしと。気温は、急低下して１７度。アマゾン育ちにはぐっととたえる。放し難いふとんの温み。

しかし、起きねばならぬ。今日の日程表を見ると、体操と美術である。「又どんなしごかれ方をされるかな」。不安と期待を胸に一同玉川へ向う。月曜日のせいか、雨降りのせいか、電車の中でのおしゃべり雀もさすがに今日は大変しとやかである。

小雨にけぶる学園の緑の丘は、昨日と異った気高さで私達一行を迎えてくれた。紫陽花の大輪が、今日は一段と濃さを増している。体操の中山先生の都合に依り、古谷先生の指導を承る。

古谷先生の体育指導

○　マットを使った運動あそび（マットの使用法には、二つの方法がある）

マットの厚さを感覚で計る。（転回運動）

(1)　足で計る　　歩く、片足とび、変則とび

(2)　背中で計る　　寝る、起る

(3)　お尻で計る　　すわる、転がる

(4)　胸で計る　　うつぶす

○　転回運動の他に、補助的な用具として用いられる。

○　柔軟性、調整力、巧緻性を培うための全身的運動である。

一応一通りやらされたが、どすん、ばたん、ゴロゴロ、何とまあひどいものである。

やっと時間が来てやれやれ、次ぎは美術の時間文Ⅰの地下へ場所替え。

佐藤先生の美術指導

○　楽しみながら造形に親しませる。

(1)　歌う人形造り。

画用紙二枚に依る人形。子供に還って下手な絵を描き、その人形に歌を唄わせる。

(2)　折り紙

画用紙を使って各々好きなものを折る。出来上った折り紙を使って、グループ毎に物語を創作して、それを発表する。腹の皮がよじれる程笑い作らの楽しい授業。

(3)　立体パズル

七つの三角形を使ってのゲーム。

(4)　平面パズル

画用紙に線を描き、切り抜いて、バラバラのものを元の様に並べるパズル。

榎　記

追　記

ブラジルより日伯親善少年団体一行２０名が到着した。

夕食後、石川団長先生の挨拶で、ブラジルから来た我々６名石川、城田、羽広、富永、木場、榎先生方の自己紹介があった。急に、にぎやかになった、移住センター、なつかしいポルトゲースの会話もあり。　　榎　記

第１２日　　６月２８日　　火曜日　　晴

全員６時半頃移住センターを出て玉川大学へ今日は玉川大学幼稚部参観日、玉川大学の食堂で持参した朝食をにぎやかにすませ、幼稚部へ行く、幼稚部の校庭には、幼児教育創立者ＦＲＩＥＤＲＣＨ ＦＲＯＢＥＬ　１７８２－１８５２の像があり、その廻りは植木で囲まれ、庭石とで調和が保たれている静かな美しい庭が見渡すことが出来る大変恵まれた環境、ただし、小田急電鉄が通る時は話しが聞きにくい。８時４０分頃になると幼児が大きな声で朝の挨拶をしながらいきいきした表情で集まって来た。我々研修生一同１４名は地主先生の案内で演習室で高橋先生より幼稚部創立から現在に至るまでのお話を聞かせていただく、キリストの教に従い全人的教養を基として幼稚園の教育を施すを目的とする。目的はきれいな心。よい頭、つよい体、を持つ子供を育てる。

目　標　　○　友だちと遊べるように導く。うまく遊べる子供は一大人になってうまく生きられる。

○　集団生活にきまりのあることを知らせる。　　耐える、我慢する。

○　身のまわりのことが、ひとりでできるようにする。

将来の為には……不親切にする。

○　身近なものに興味をもつようにする。

○　正しいことばを使えるようにする。

子供は遊ばないと馬鹿になる……小原国芳先生

遊びの中で子どもの姿をとらえようとしている。

保　育　時　間

８時３０分から１０時まで　　自由遊び

１０時から　　朝礼　行進曲で組単位に整列行進して朝礼のラインの位置につく、

○　男の先生の挨拶　歌二曲　（幼児は挨拶の時は帽子をとります）

○　コケコッコー　　夜が明けた、　○　なにぬねの天気予報

○　女の先生童話のお話し　　「かえるの王様」

○　お祈り

○　讃美歌　　「今朝も私の」

○　研修一同に挨拶して　　「歓迎の歌」

○　各自広ろがって　　体操になる。　リズミカルなもの

○　歌　　元の位置にもどる、　「おへその歌」

○　行　進　　一列に並んで校庭を行進

室で歌で始まり歌で終る授業、各自母親の手作りの弁当を持参している。のびのびとした授業の中にルールがあり、けじめがはっきりしている。１時頃まで我々も幼児と共に弁当をいただく、幼児の話しに聞き耳を立てゝ過ごす、２時過ぎ、習字（２時４０分から）

成宜園で待つ、吉成先生の案内で中に入り準備をする。雨戸を開けたり机を並べたり、

石川先生　号松華　師川上景年氏の門下　大道書学院

書道　日本と中国だけの文化。

言葉が生まれ　－－　文字ができ文化が急速に発展。

東洋の文字は中国で生まれた。

世界で最も古い芸術である。

秦から唐の時代に完成。

中国文化が入ってから書道も、はじまり三百年後には、日本独自の文化ができた（かな書道）。

書道　ただ文字を写す。うまく書く、ということでなく、形は目的でなく、筆の勢い、線の変化、墨の濃淡の美しさ、内面のものが出てくる。書は心画なり、書は人なり、厳粛で尊い感動を与える、手本の見方「はね」縦に９０°に、「はらい」右と左、点、たて線、横線、「筆の入れ方」４５°

説明の後、石川先生の作品を見せていただいた、四つの作品、楷書六百二十余字、全員正座が出来ず、楽な姿勢で講義をきく。

一つの作品に８時間をかけ、心を同じ状態に持って書く、気力です。

夕食時に各自が国際協力事業団技術研修員の診療に関する証明書をいただいた。

佐藤　記

## 第１３日　６月２９日　水曜日　晴

一昨夜着いた日伯親善少年団のさえずりで目覚める。少し雲はあるが、今日は晴だ。

７時半、江崎職員指導でラジオ体操。

８時　朝　食。　９時１０分前センターを出発する。

１０時４０分、文Ⅱ３０７教室　現地授業研究　正善先生

此の時間に吉成先生より教材を渡される。「劇あそび、ことばあそび、みぶりあそび／ごっこあそび、新しい国語ハンドブック、国語学概論Ⅰ・Ⅱ」である。此の時間は、南マットグロッソ州から来られた城田先生御持参のビデオを見せて頂く。"子等よ、かけよ、緑の大地を"と題された其の内容は実に素晴らしいもので、最初に異国の地にねむる先駆者の墓をうつされ、見る者をして襟を正させしめる構成は素人ばなれしていられ、ナレーターも美しい。

１）ファチマド　スール　日語学校

２）グロリア　デ　ドウラードス　日語学校

３）ドウラードス市　日語学校

４）ラランジャ　リーマ　日語学校

５）ナビライ　日語学校

6）インジオ　小学校

7）共　栄　日語学校

合計7校のそれぞれに異った事情の学校の様子が、よくとらえられていて、不自由をしのび乍ら情熱を込めて努力しておられる先生方に、唯々頭が下がる心地がする。こうした苦労と努力の中から明日の社会を背負う人達が育つことを信じる。先生方、頑張って下さい。

１２時、中休みとして中食。皆食慾盛ん、併し其のわりあいに肥らないのは、猛運動のお蔭さま。

１３時、大体育館に於て、　体操　　中山先生

わ、なわ、ボール、棒などを用いたり、ジャンケンしたり、正に跳ねたり、とんだり、走ったり…

子供の体操は、あくまで、楽しく、よろこんでやらせるのでなくては効果が少い。あそび乍らするたのしい体育を力説される。

１４時４０分、文Ⅱ３０４教室　　正善先生

ビデオの終りのところを見せて頂く。そのあと、正善先生から１人ひとり感想を聞かれる。

私は、先生方の熱情に心打たれると共に、日本語を教える、或いは学ぶということの意義を改めて考えさせられた。それは言葉を通じて祖先を知り、その美点を受取り、受けついで、ひいては世のため人のためになる。人間作りの手伝いをすることではないかと思う。

此のあと、年次目標のたてかた、カリキュラム作製のことなどの話が出たが、各々異る学校の状態であるので、正善先生から、「自分の学校では、どうかと考えてみよう」とのお言葉を頂いて、今日の授業は終了。

１日晴天にめぐまれ、意義深いプログラムであった。

１８時、センター帰着、夕食、たっぷりのお湯に疲れをいやし、寝に就く。唯感謝。

村上　記

## 第１４日　　６月３０日　　木曜日　　晴

午前中、小学参観になっているので、６時３０分センター出発。

小学部グランドでは、いっぱいに生徒があそんでいる。先生方の姿もあちこちにみえた。グランドで朝の職員打ち合せ会。少しの時間にそれが終って音楽がきこえると、今まで好きなことをしていた生徒は、足ぶみを始めたと思っているうちに、いつの間にか各学年別に整列。正面の一段高い台の上に、当番らしい高学年生が５人ばかり立っている、それにむかってコの字型にピシッと並んでしまった。先生の、かけ声、さけび声は全くきこえなかった。否、生徒たちのさわがしい声さえきこえないで、きちんと並んでしまったのにはおどろいた。

１年生は、入学してまだ３ヶ月足らずなのに、自然に動ごいていたのにはおどろいてしまう。その後も、先生の声は全くきこえず、当番の生徒によって、次々と朝の会が進められていく。

吾々は、佐々木校務主任より、紹介していただき、石川団長、代表して挨拶する。

朝会が終って音楽に合わせて学年別に行進して行ったが、それがまた、みごとな行進であった。

事務室で、佐々木主任より色々と説明していただき、その後、1年から6年までの教室を説明していただきながら観せていただく。6年生の音楽の教室、実に音を楽しんでいる雰囲気があり、私共が観ていても、いなくても全く変わりないように、のびのびと楽しそうに歌い、又、自分たちで、自分たちの音楽の時間を進めていっている。先生は、生徒と同じ机についてニコニコしているだけで、あまり声を出していらっしゃらなかった。

午后は、体育レクリェーション。石井先生のユーモアたっぷりの楽しい時間。しかし、先生の経験を通した子供とのふれ合いのお話は、大切にきいておかねばなるまい。子どもと楽しくあそぶためのやさしい道具の作り方を大いそぎで、いくつか教えていただく。

体育レクリェーションの時間は、これでおしまい。なんて短い時間だったのだろう。こう云う時間をもっとたっぷりほしいと思う。

4時30分より、小学部の先生方との懇談会、時間が足りないくらい、みんな熱心に質問する。

教材が、なんでもそろっているようにみえる玉川学園でも、先生方は、教材作りには、苦心されているとの事。たいていは、生徒といっしょに教材を作りながら、躾や、言葉などの成長を助けていく。

と、先生方の生徒に対する関わり方から、教えられること大であった1日であった。

二階堂　記

## 第15日　　7月1日　　金曜日　　くもり一後晴

今日の授業は10：40からなので、昨日程急ぐ事はない。

「もう皆さん大分電車の乗り継ぎも上手になったので、9時15分前で十分ですよ」と自信満々で副部長の城田先生。

10：40　音　　楽　（朝日先生　一　初授業）

13：00　リトミック　（小野先生）

14：40　日本語教育　（上原、片山、正善先生方）

音　　楽　遊び乍ら楽しく歌わせる。音楽嫌いな生徒でも「手拍子」から始める。「もちつき」の歌で笑い乍ら3人組でやらせる事に大きく声を出すのに良いとか……

指を使って「ちょうちょ」「トマト」の歌、愛吟集より「我は海の子」「浜辺のうた」「夏の思い出」「線路は続くどこまでも」等の合唱、朝日先生はどうどうとピアノの前に腰をかけられ、力強い声で歌い、弾かれる。

リトミック　解放する為の動作から始まり、「ありさん」「かくれんぼ」のゆうぎ。ゴム、バター、うどんの動作で皆さん身体を延ばしたり、縮めたりで汗びっしょりになる。

正善先生、　鏑木課長も参観

日本語教育　正善、片山、上原先生方と鏑木課長も出席。

日本語を考える－上原、片山先生から説明を頂く、後、私達各自の問題点に指導して頂く事になったが、まだ未決、「どこまでも２世、３世は日本人のカンバンをかけているので ……」と日本語の必要さをしみじみと語る鏑木課長。

１６：１０　授業も無事に終え、又この１週間も玉川学園の先生方の素晴らしい、心底温まる人間関係にふれあい、幸福、感謝そのもの。

明日はハト・バスで東京見物を楽しみに床につく。

羽広　記

## 第１６日　　７月２日　　土曜日　　曇　一時雨

東京１日コース（Ｃ）

皇居前 ― 浅草観音 ― 東京タワー ― 明治神宮 ― ＮＨＫ放送センター ― 靖国神社
（３５分）　（４０分）　（６０分）　（３０分）　（４５分）　（２５分）

研修開始以来、緊張した毎日の２週間、今日はリラックス気分で、はとバスによる東京見物。

"東京の今昔をたずねて山の手も下町も１日ゆっくりと。"という東京１日コース（Ｃ）。

午前８時１５分根岸発、９時１１分東京着、所要時間５５分。

今日は、センターに朝食がなかったので東京駅にて、モーニングサービスの朝食をとる。

９時４５分、集合場所のはとバス待合所の前へ行く、正善先生と奥様がご一緒して下さるということで、お２人に感謝の気持をこめて「おはようございます」。の挨拶。１０時４分出発、我々中南米グループ１４人と沖縄から来られたご家族３人と一行１７人。窓が大きくてとてもきれいなバスでした。ガイドは愛らしい武藤裕美子さん、同名で親しみを感ずる。

東京都庁、太田道灌の銅像、週日は１３万人もの働く人であふれる千代田区丸の内を通り皇居前へ。

１５年前に最後にきた時と同じ皇居、東京がどのように変っても変わらぬ姿、それは皇居であるというが本当にその通りと思う。玉砂利を踏み右手に坂下門を見ながら二重橋の前でストップ、記念撮影、バスに戻るため、慌しくもと来た道を歩き出す。"ラピド・セニョリータス、ラピド・セニョーリス!!"正善夫人が大きい声でゆったり歩く我々を呼ぶ。とても明るいセニョーラで誠に楽しい限りである。全員バスに集合し、まもなく出発。ご成婚記念（皇太子、美智子妃殿下）の噴水を左手にみて、れんが作りの東京駅を右手にみながら通過。この東京駅はアムステルダムの駅を模倣して作られたものだそうだ。

浅草の雷門に到着、庶民の心のふるさと浅草寺参詣。入口にもうもうと煙をあげている場所がある。このけむりを浴びると頭がよくなるとか美人になるとか、健康になるとかの願い事が叶うと言われている。他人のあげた線香ではご利益があるかどうかと疑いながらも身体中に煙をかけた。次はご本尊へお参り、皆それぞれおみくじをひいてみる、ところが、皆は吉なのに私のは大凶。日頃の行いが悪かったのかとシュンとしていると村上先生が「大凶は大吉と通ずるのよ」と慰さめてくれたので少し

気をとりなおす。さて、名物の仲店、時間がなく、せわしく半分迄見て、かけ足で戻る、集合時間、１１時５０分、すべりこみセーフ。新橋、銀座、有楽町を通り、かの有名な東京タワーに到着。昼食の時間ということでお腹をすかせていた一同はホッとする。正善先生、奥様をかこみ楽しく昼食、昼食後、展望台へ向かう。エレベーター１分で、１５０ｍの高さにある展望台へ着いてしまうことにビックリする。晴れていると房総半島から三浦半島、富士山も見えるということである。降下用エレベーターは４階までで、そこからはおみやげ品店が並び、それをみながら降りていく、時間がないのでゆっくり見ることが出来なくて残念。集合時間に急いでバスの左側にまわったら入口がなくてびっくりしてしまったと言う人達がいて大笑い。南米ではバスの入口は右側だからである。

麻布、六本木を通り明治神宮外苑に到着、いちょう並木がとても美しい。玉砂利を長い道程、踏んで歩き大鳥居を通る。これは我が国最大の木造の鳥居とのことだ。ご本殿に入る前にお手水で清め、お祓いをして社殿にお参りする。花菖蒲で有名な御苑はコースに入っていないので残念ながら横目で見ながらバスに戻る。

原宿、千代田区を通り、ＮＨＫ放送センターへ向かう。時間に追われ、走りまわるのに疲れたようで、バスの中ではウトウト眠る人が多い。ＮＨＫ放送センターでは、見学通路より番組の製作過程、セットなどを見学、世界一広いというスタジオ１０１他１０４、１０５等。沢山のカメラや撮影セットに驚く。今人気絶頂の徳川家康や朝の連続ドラマ“おしん”もここで作られるとのこと。紅白歌合戦など行なわれるＮＨＫホールも遠くより見ることができた。

最後のコースは靖国神社、２４０万柱の御霊へ参拝、７月１３日に行なわれるみたま祭りの準備に忙しそうだった。

バスの中より書店街である神田を見、終点の東京駅到着は午後４時３０分、予定よりも１時間位早かった。とにかくどこへ行っても忙しい忙しいの慌しい見学だった。

正善先生は「集合時間にはいつも１人も遅れないというのは今年の人達は感心感心」とほめて下さった。奥様は「それに、今年の人はよく食べるわね」とびっくり。そういえば集合のたびに皆コーラを飲み、アイスを食べていたのだから無理はない。忙しい見学に少し疲れはしたが、とても楽しいよい人達ばかりの中南米の仲間達、そしてやさしくて愉快な正善ご夫妻との東京見物の１日はとても楽しかった。よく歩きまわり、カメラマンも兼ねてあちこち走りまわって下さった正善先生、奥様お疲れさまでした。どうもありがとうございました。研修生活の楽しい思い出の一つとなることでしょう。

富永　記

## 第１７日　　７月３日　　日曜日

昨日のハトバス東京見物の余韻疲れか７時半に守衛さんの電話の呼び出しで目を覚した。

日本に来て２週間も過ぎたのでそろそろ先生方の身の廻りも多忙、１０分おきに電話なり呼び出し、階段の上り、下りとあわただしい。

根岸から玉川学園までの毎日の通学は社会探訪もかねての事ですが体力の消耗は大きい。

手紙なり勉強の整理と時計を見るが気が進まず寝台に横になるがどうも気がおちつかない。

昼に弟から電話が来て呼び出し１５分位で行けるので飛んで出る。弟にも頼んだのだが日本の表よりも裏町？をと注文、今日は伊勢崎町散歩、外国人もちらほら昔の思影はなく近代的、商店街、すばらしい見る物、聞くものすばらしく又珍らしい、しかし、物を買おうとは考えられない物価が違う、円、ドル、クロゼールと概算したとき手が出なくなる、馴れるまで、もう少し時間がかかりそう夕方歩き疲れてちょっと一杯センターに帰る。夜１２時頃迄書き物する。

石川　記

## 第１８日　　７月４日　　月曜日　　晴

日曜日以外は、７時５０分よりラジオ体操第１、第２と江崎さんの指導のもとに行れますが先生方すべり込み、朝体操は現地でも子供達と習慣ずいているので体がほぐれて気持がよくなる。胸一杯朝の新鮮な空気とはいえないが深呼吸で体が整う、朝食はちょっと失礼ですが形式だけのもの軽く済せ電車に乗る、最底３回の乗替は、ラッシュアーワにはいやになる。

午前中は、現地授業研究でマットグロッソの城田先生の説明、奥地での週末だけの日語、土地柄苦労と努力がうかがわれる。教材不足と生徒を集めること大変、先生の社会的奉仕、今後も頑張って下さい。次は自分の番で地理的に、そして経営法、年中諸行事など生徒のレベル日語の理解度を説明した。先生方組織化なり運営状態に驚ろいた様子、父兄の信用度など問われ、それなりに返答、苦しくなる前にタイムアップホットする。

ブラジル最後の羽広先生（レシフェ）は現在生れのハンデーを背負っての小規模ながらの職務、今回の研修に非常に感謝の心。

午後は佐美先生の美術、今までの研修生の教えた事と連がりに就いて話、現地に帰ってからも何らかの形で連絡を取るよう、授業は体表現の活用、先生方一流中の一流上演技、夕方疲れてセンターに着くやれやれ月曜日、手紙を１通書いて１１時過ぎ休む。

石川　記（代）

## 第１９日　　７月５日　　火曜日　　雨

朝８：３０分にセンター出発。　１０時玉川学園着。

授業は１０：４０分からなので、ほかの先生たちといっしょに学園の食堂によって、アイスクリームやジュースなどを飲んで一休み。

Ⅰ　１０：４０～１２：００　児童音楽　－　朝日先生担当　－　文Ⅱ５０３

- 動作をいれた「森のキツツキさん」
- 「玉川学園校歌」

○　「夏の思い出」

○　「もみじ」

○　「山賊のうた」山賊らしき声を出して歌う。

○　「ずいずいずっころばし」

○　「でんでん虫」大きく動作をつけて

II　13：00～14：30　児童心理学　―　日名子太郎先生　―　文II503

1.　今日のわが国の児童問題

①　社会構造の変化　　とくにコンピューターロボット、ワープロその他の発達の影響

②　出　生　児　数　　減少と急速な老齢化傾向

③　進　学　問　題　　高度な進学率のかげに

④　非　行　問　題　　犯罪の低年齢化、家庭の教育的機能の減退

⑤　離婚、夫婦不和、家庭崩壊と児童

2.　児童問題、児童教育と児童心理学

①　成長加速現象　―　心と体のアンバランス　―

②　知識偏重の教育のもたらすもの

③　発達的に後退を示す面も認められること

④　親、教師と児童心理学

昔とくらべて家族構造が変わって来た。子供の数が少なく、家の「あととり」については、もうあまり重視されなくなった。

光や音（テレビ）または食べ物などは子供の成長に大きく影響する。都心に近ければ近いほどテレビの影響で子供の生理的な成長が早くなる。

| | |
|---|---|
| 日本では小学校へ行く子供の率は | 99.8％ |
| 中学校 | 98.　％ |
| 高　校 | 95.　％ |
| 大学＆短大 | 60.　％ |

と、率が高いにもかかわらず、子供の非行がふえるのはなぜか、まわりにふり回されずにその子供の能力に合った教育こそがその子のためであるなどと社会的な児童問題について、いろいろ話して下さった。

III　14：40～16：10　習字　―　石川先生　―　咸宜園

ほとんどの先生方あまりうまく書けず、習字とはむずかしいものだとつくづく思う。

朝から雨でまったくうっとうしい一日であった。

小松　記

第２０日　　７月６日　　水曜日　　曇り後雨

１０：４０　日本語を考える　（片山先生　文Ⅱ　３０７）

先ず、先週木曜日、午後８時に放映された、ＮＨＫ教育テレビ「言葉の分水嶺を行く」を見る。

岐阜県徳山村には古い言葉がふんだんに盛り込まれている古い話がいっぱいある。（例、カワウソとタヌキ）その村がダムの下に沈もうとしている。

片山先生講義

- ブラジルトメアスの場合、日本語の発音は正しくなくてもよい、日本の文化を愛することである。
- １９４０年（昭和５０年）に沖縄に於いて標準語問題が起きた。経済的、行政的格差をなくすために沖縄で共通語を教えた。
- 日本語の将来は方言がなくなって共通語になる。方言は、機械的、強制的にけずられる。

１３：００　児童心理学　（日名子先生　文Ⅱ　３０６）

発達理論に於ける最近の傾向

(1) 遺伝（成熟）と環境（学習）の相互作用に於ける重点の変化

(2) 構造上の変化への現点

(3) 低年齢児（０～６才）の教育の重視

児童におけることばの発生と生活環境

(1) 個人におけることばの発生と生活環境

(2) 感覚運動的知能と言語思考

(3) 単一民族、言語国家と多民族、言語国家の考え方の相違

(4) ことばの辞れと、思考の多様化

(5) 習慣と知能

- アメリカが開発した遺伝子で毛のないにわとりを作る。うす暗くして音楽をあたえるとふとる。えさを少くして太らせる。毛があると蛋白の摂取量が多い、今日本には首だけ毛のないにわとりが遺伝子の組み変えでできている。しかし、遺伝子の組み変えは危険がないとは云えない。
- １９４５（昭２０）年は遺伝の影響が７割、環境の影響は３割位と云われたが、１９７０（昭４５）年には境の影響が大といわれる様になった。（例、おおかみに育てられたアマラカマラ King 牧師が育てたが１５～６才迄しか生きなかった）
- 言語学習は２才～小学３年位迄に集中的にやることが大切である。
- 動物と人間の違い（ボルトマン高木正孝訳による）は、(1)直立姿勢、(2)世界に開かれている、動物は一定の環境にしか住まれない、(3)言語をもつ。
- 習慣は知能につながる。よき習慣を身につけたいものである。

貝原　記

第２１日　　７月７日　　木曜日　　曇り後小雨　気温２１℃～２５℃

本日は、国際学友会、日本語学校見学の為、７時３０分センター出発。

根岸より京浜東北線にて品川ー新宿と乗り替え乍ら９時に大久保駅に着く。

正善先生との待合せの時間まで２０分あったので各自駅の北口で朝食。（立食……）

丁度時間に正善先生ニコニコ顔でやって来られた。ここから案内者は先生なり！であるので気を張る、心配御無用！９時４０分学友会へ到着。間もなく理事長室へ案内され正善先生が私達研修生一同１４名をまとめて紹介して下さる。それに引き続き三浦理事長歓迎の挨拶並びに学友会日本語学校長、教頭の御挨拶あり。その後私達は荷物を預け、授業参観へ、と２階へ上る。１０時１０分我々研修生は２名ずつに別れそれぞれ決められた教室へ入る。私はリオ・デ・ジャネイロ出身の富永先生と１年コースで来年３月に大学へ受験するクラスで現在授業開始３ケ月と云う組であった。私達入室すると後方にいたマレーシア人の学生さんが、親しそうに問いかけてきた。３ケ月と言うのにとても上手に話していた。間もなく戸田先生入室。早速私達自己紹介させられる。ブラジルの国からと言ったら学生さんたち「地球の反対側……？と言って目を丸くして感心していた。すぐ授業に入る。「昨日の復習です」（教科書１４１頁第２８）と言って先生が最初に文章を黒板に書き乍ら読み、続いて、「それでは皆さんハイー」と全員に音読させ、次に１人１人指名し読ませていた。

発音がまちまちで意味がおかしくなった場合先生が再度読み直し全員に読ませると言う復習。

それに引き続き新頁へと進行。又、同様の形式で始め、その中に簡単な文法（名詞、形容詞、動詞）を入れ図をかき乍ら手振り身振りで説明していた。

１１時１０分第１２号室（弓田先生）の授業参観。弓田先生「今日はー」の挨拶と共にサーサーとこ、そ、あ、と言葉の練習問題のプリントを全員に配り、「２０分間で満しなさい。何を見てもかまいません」とニコニコ顔である。私達にも下さったので一応目通。２０分後先生が１つずつ説明しながら（図もかいて）解答。（まるで漫画家の様に上手にかくのには感心した。）ですから見ている丈で充分わかるのです。

此のクラスでは可成り難しい漢字を多く使っていた。数分前に授業を終えたなーと思っていたら…先生いわく！「これからブラジルの先生方にひとつお話をして頂きましょう」。

に、は、口下手な私は、ビックリしました。

富永先生早速出身地であるリオ・デ・ジャネイロのサンバのお話、キリスト巨像等の名所を語ったり質問したり何時もの如く、仲々お上手に役を果す。続いて私。

世界で水量第１位の「Ｒio Amazonas」と野生動物の話を語り皆さんにお別れをして廊下へ出る。

一同揃ったところで、学生食堂にて昼食を御馳走になり、会議室へ案内され、名札の付いた場所に着席し、お互いに（当校教師と）自己紹介。引き継き意見の交換。研修生次々と幅広く質問。それに対し先生方返答。此の学校の修業期間は１年コースと１年半コースとがあり、前者の場合は、毎年４月１日～翌年３月３１日まで、後者の場合は毎年１０月１日～翌々年３月３１日までとなっていて、

１クラス２０名以下の小クラス制を実施し、大学進学別に編成されているとの事。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 進学課程 | | １年コース | １２０名 | ３８週の授業 |
| 数理英社 | 日本語で習う | １年半コース | ８０名 | ５６週の授業 |
| 専攻課程 | （日本語だけ） | １年コース | ３０名 | ３８週の授業 |
| | | １年半コース | ２０名 | ５６週の授業 |

で、授業内容は、聞き方、話し方、読み方、書き方、文法について基礎的な日本語を習得させるとともに日本の諸事情に就いて知識を与えるとの事。経費は全て自費で年間６０万円、尚、当校は日本語講師の海外派遣もしているとのお話しで？本日の意見交換終了。

後、学生課にて教材を見せてもらい多数購入していた先生方もいた。

本日は正善先生御夫妻が夕食に招待して下さると言うので、学友会をあとにし、大久保駅～高田馬場駅まで電車で行き、それからは徒歩で、正善先生を先頭に我々１４名連行。４：３５分先生宅へ到着。ＳＥＮＨＯＲＡ正善先生及び近所の奥様２名（若武者とか……？）の歓迎でお部屋へ通されそれぞれ荷物を置き１休み。肩たたき付きの椅子に代るく座り肩をたたいてもらっていたので私も座ってみる。とてもクスグッタイのでトビ上った。間もなく応接間に通され手料理満載の卓につく。何れを見ても全て珍味的な御馳走ばかり（今朝から３人でお作りになったとのこと）。

早速乾杯！ＳＡＵＤＥ！続いて美味しい手料理を次から次へといただき。ＳＥＮＨＯＲＡ正善のお弾きになる荒城の月、さくらさくら等に（　　）一同うっとり……感激／アンコール／アンコール／その後研修生一同上手、下手なしとて、１曲ずつＯＢＲＩＧＡＤＯで披露。尚恒例の通大祭の前夜祭中南米の踊りと服装を大体決める。前回の皆さんに劣らぬ様ＶＡＭＯＳ　ＥＳＦＯＲÇＡＲ／ネ。

本日は七夕祭。ＳＥＮＨＯＲＡ正善の準備された葉竹に祈りをこめて書いた札を下げ記念撮影。

その後正善先生より記念に、と言って先生が書かれた「ＡＲＧＥＮＴＩＮ便り」を１冊ずつ頂き、サイン帳に、各々感謝の意を表しサインをし、名残り惜み乍ら、９時先生宅をあとにし京浜東北線にてセンターへと帰える。１０時２５分着。

今日は本当に楽しい意義ある１日でした。

正善先生御夫妻様　　Muito　Obrigado／

木場　記

## 第２２日　　７月８日　　金曜日　　曇り

第二時間目（二時限）　ＡＭ１０：４０分より、児童音楽の時間、　朝日先生

この時間は合唱曲、輪唱曲に関して、合唱曲がしっかり歌えるようになってから輪唱曲に入るようにすること。

１曲目　　蛙の合唱

２曲目　　夜が明けた

3曲目　うたいましょう。

4曲目　お寺の坊さん、　手あそびを加える。順に口ー耳ー口、耳同時に手を交差。

5曲目　もしもコックさんだったなら。　この曲は玉川学園の生徒（小学部）が作った詩に小宮路先生が作曲されたと聞く。子供らしい夢のある歌である。

6曲目　歩いてゆこう。　さぁーとほいと言うあいの手を入れて楽しくあそぶ。

7曲目　おおブレネリ。

限られた時間帯の中で少しでも多くのものを学んでもらいたいと言う朝日先生の御心づかいに感謝致します。今日で児童音楽の時間は終りとなる。

第三時限目　リトミック　PM13：00　小野先生

子供の心理をつかむことを目的とした大切な時間帯である。自分自身が子供になりきること。

ー　今日やったことは先ず、スキップしながら先生の号令にしたがいグループを作るあそび、このあそびは男、女間の隔りを取りのぞくことに効果がある。

ー　集中させる方法。　指の指紋を数えさせる。脈を数えさせる。心臓の音を聞かせる等。

ー　イメージを膨らませる方法。　たとえば海を思いうかべさせる。色んな場面を想像させる。静かなバック音楽をかける。二人組になり今うかべた風景を話し合わせる。

ー　海に関連して波を想像させる。（表現）　4人グループになり波を体で表現させる。ーバックに波の音を流す。

o　ねらいは表現力を豊にする。（男の子はダイナミックに女の子は静かな表現をする）

ー　1枚の新聞紙を渡す。　この新聞紙1枚で何にか物をつくる、ただし、折り紙の様に折ってはいけない。ちぎったりすることは良い。

o　ねらいは創造力をつけさせること。
グループになりそれぞれが持っている新聞紙を使って動く物をつくる。

o　紙のコップ、紙の皿等を使い物をつくらせる。

ー　歌にあわせた軽い遊戯

ー　1人づつが向いあってどちらかの動作をまねる。手の先に糸をつけた様にして同じ動作をする。

o　ねらいは相手の気持をくみとらせること。

第四時限目　海外日本語教育　上原輝男教授

前回（7月1日）行われた日本語教育と云う問題についての座談会形式でのそれぞれの先生方が発言された、その時の話し方、発音のし方について。

皆さん（各先生方）の発言は非常に貴重だと思った。特に貴重だと思ったのは、皆さんが日本語を話すとき、祖国日本とその発言者がどのようにかかわっていたかと言うことが音声によく表われてい

たように思う。どの程度にかかわりを持った人かと言うことが良くあらわれていたように思う。それは日本語がじょうずであったか、あまりじょうずでなかったとか言うことでなく非常に感動したのは音だと言う事。皆さんが話す音の調子がそれぞれなりに少しずつ動いていると言う点で、これを悪く言うと調子はずれになっていると言うことであると語られた。

本論に入る。日本語を教えると言う場合にどうしても錯覚する間違えてしまう考え方をすると言うことである。言葉を教えると言うことはどう言うことであるかを余り深く追求しないで教えてしまうことである。この時に間違って教えてしまう。

- ○ 一番悪いのは、言葉を教える時に文字を教えてしまう、文字を教えるのが言葉だと思ってしまう。
- ○ 文字と言葉とは区別しなければならない。＝ 文字を指導すると言う事と言葉を指導すると言うことと区別しなくてはいけない。
- ○ 文字を指導すると言う事は第二次的な指導対象と考えなければいけない。＝ 言葉がろくに話すことも出来ないのに文字を教えると言う事は考えなければならない。"文字を教えれば言葉を教えられるとすることはまずい"これをやってはいけないと言うのではなく区別しなければいけない。
- ○ 言葉を教えると言うことはなんであろうか？一番基になることは何か？。＝先ず文字をはずした。では文字をはずして教えれば良いと考える。

次に言葉は単語から出来ていると考える。

単　語

- ○ 我々が話す言葉はずうっと時間に乗ってと言うか言葉は時間がかかる。と言うことは続いている。日本人は、これを流れていると言った。
- ○ 言葉は流れを持つ。＝これも日本語の特長。
- ○ 言葉を流れると表現する日本人は川の流のように感じる。＝ ここがすでに横文字と違う点、西欧（ヨーロッパ）の言葉とは異ったものである。
- ○ ヨーロッパの言葉は構成されていく。組立てられていく言葉だと云われている。ところが日本語は流れていく、川の水を組立ていくことは出来ない。川上から川下へ流れていく。必らず日本人の言葉と言うのは川上から川下へ流れて行くと思っている。

故に日本語と言うのは最後にならなければわからない。

例 ＝ この本をあなたに差し上げ …… これではわからない。

…… ません。　　と言うふうに

ようと思ったが止めた

最後まで聞かなければわからない。これは流れていると言うことである。

- ○ 日本語は構成されて出来上る言葉ではない。＝ だから本来はブツブツに切ったりは出来ない。

だけれども言葉は小さな単一の言葉から１つ１つ切り離されたものが、つながっているんだと考える。だから、子供は、まだ充分に言葉をつないで使うことが出来ないから、この１つずつを教えてやればと考える。だから言葉を教えるには単語から入るという教え方を考える人が多勢いる。

例　これはなんですか　……　チョーク
　　本　　とみんなに言わせる。こう言う単一の単語が
　　エンピツ

覚えられたら、この単語をくっつけていけば良いと指導されている。

中南米の現地の学校でも上記の様な教え方で指導されている先生方も居られた。その指導方を見て問題にしたのは、それは音が狂っていると言う点である。

上記のように、これはなんですかと言う問いに対して"エンピツ"と答えている点であるが、上原教授は、それが言葉なんだと言われる。単語を教えると言うことでなくって、単語を構成すれば文になると云うふうな考え方は、それはヨーロッパの言葉を説明する時に当てはまる、これはやっては駄目と云う事でなくて又ある程度年を取って大人になってから、物が充分思考できるようになってから、知的に分解して説明すると言うことは悪いことではない。

たとえば文法と言うものには、文の決まりがあるなんて言うことの理解が出来るようになってから、できる子供達をあいてに文の決まりを考えてみましようと言うのは結構だと言える。

"しかし、それは文の決まりを学習したのであって言葉の学習にはならないと思うと云われる"

中南米の先生方がやらなければならない仕事の内容（中身）は、どうしても言葉本来のものを指導されなければならないだろうと言う、それが何にかと言うと音声である。

音声の訓練をする必要がある。―　何故かと言うと、赤ちやんが言葉を習って行くのは単語を習っていくと言う様な意識で習っているのではなく、音声を習っているのである。

人間だから音声は出るはずだと思っているけれども、これは大変なことをしているのであって、音声を出すと言うことは、息をすっかりはいたりする中で、その息にともなわせて声帯をふるわせて行くことであり、それが音声となってでる。他の動物にだって鳴いたり吠えたりすることが出来るじゃないかと言えるが、人間は他の動物に比べて、もっと高度の音声の使い方をやっている。と考えなければならない。だから、知能が発達すると平行して、その音声使いを人間は発達させている訳である。

現地の先生方がやって行かなければならないのは、大人を対象としておしえるのではなく、子供が成育していく成育過程での音声指導をやらなければならないと言うことである。従ってなおさら音声指導を大切にしなければならない（子供が対象である）

1.　文字言語を指導するよりも先ず先に音声言語を指導する事。

o　先ず言葉の指導と言うよりも日常生活化させること。

日常生活化させよと言うことは別に変わった意見でもなんでもなく、日本内地に於ける小学校

の指導はこうしなければならないと言った法規がある。その法規の中にも小学校で一番大切なのは日常生活化することであると書かれている。

"子供達に日本語の指導をするとなれば、その子供の年令にふさわしい日常生活をさせること"

日本の古典、東洋の古典、中国の古典、仏教、こう言ったものの基本を見ると一日本でも中国でも、東洋人は先ず教育となったら一番最初にやることは、掃除をしなさいと言うことである。

学校と掃除はつきものである。

学問をすると言うことは心を綺れいにすると言うことであり、日常生活と切り離されていない所に素晴らしさがある。

生活の中で言葉が発生してくるのであって特定の時間の中で言語を使うなんてことは役に立っわけがない。

2. なぜ、そうなのかと、日常における気分、感情、心の動きが音声をともなう時、日本語音として出る修練をすることである。

心が動く、気分が動く、その時に、その気分が動いたのを音に変える。気分と音とを1つにすることが一番最初にすることである。

我々の体、特に東洋人の体の中には何にあるか一つの変なものが流れている。そして、それを東洋人は誰よりも早くみんなが感じとっているものがある。

それがあって、それが今度は口があって声帯をふるわすと、それとの関係のものが出て来る人間は心を持っていると言う。だけども心なんて言うものは、これはある程度年を取ってみないと仲々わからないものである。だけども心があるんだなあーと思わせるものがある。感情？難かしすぎる。

気分　　気が分かる　　こう言った言葉は非常に難しいけれども日本人は習はなくても、

気持　　気を持つ　　最初から知っていた。

それが気だと言える　　気がなかったら死んだも同じこと。→気を失なったと云う。

気が違っていたら　→　気違いとなる。

故に一番大事なのは、気だと云える。これは皆んなが感じるものなのである。

とした実験をやってみる。

自分の利き手の指を2本そろえて、指先に力を入れる。（そらす）力を入れれば、そこに意識が集中する。そして、それを左手の真中あたり（へこんだ所）に垂直に近づける（くっつける）そしたら近づいたと言うことが左手の方に感じられる人。その感じるものが気だと言う事である。

人間は気で生きていると言う事で特に日本人は、この気を感じると言う事がものの最初である。

こう言った様に考えてみると日本語と言うのは面白い。丁度、今は梅雨時でうっとうしい時期だけれども、このうっとうしいとか色々なものを感じるんだけれども、それは気が感じているのである。

そして、今野山の木々は緑をどんどん増している。野山の木々の事を樹木の事をとうして日本人は木と言うのであろうか？

同じことだから、野山の木は、日本人は気を感じるものであるかと、とらえている。そして野山の木々を見た時に我々の気をすぐに反射してくるからあれを木と言っている。

字が違うじゃないか、そんな事は関係ない、それは後でくっつけるんだから、特にこの文字は日本人は借りものであるから（中国から借りた）

"こんな頭が良い日本人はどうして文字を造らなかったのか不思議だ"謎の１つといわれている。

気も木も同じだと言うことが判っていただけると思う。

槙　なにが最後に残ったか？木である。マ木、ス木、カ木、ヤナ木と言うように木辺がつ
杉　いているからでなく、これは中国人が発明したものである。読み方は全部日本人が日
柿　本読みと言うか字があって、これを読んだのではなく、言葉はすでにあるのであるか
柳　ら。日本人は木を見た時に林と言っている。これはなんとかの木、それはなんとかの木という風に言っている。気を感じているのである。物の名前ではないんで感じたものを言っている。

髪　髪の毛、これも同じ事である。気と同じである。　→　先刻と同じように手の平を開き髪に近づけると同じ反応がある（感じる）

感じるところだから毛と言う。

人間にとって特に日本人にとって、これがどんなに大事なものであるか。

特に大事なこと　　日本人の挨拶

挨拶はなんと言うか　　元気ですか、相手の何にをたずねているか、あなた元気ですかと言っている。あなたの気をたずねているのである。

日本人は、この気を非常に気にしている。それの一番元になるもの元の気を気にしている。

元の気とは何にか　　これは中国から教えてもらったものである。

こんにちはと言うのは何であるか　－　これは後がなくなっているもので、こんにちは良いお天気ですね。

必らず天気をたずね元気をたずねる。天気、天気と言うのは本来１つのものである。天の気であるから元気なのである。一番基の気である。宇宙全体を動かしているもの、それを元気と言う。それを中国人はずっと大昔に見つけていた。　"それを日本人に教えた"

上記の事を締めくくれば日本人の子供に日本語を教えると言う事は日本人の気持ちを教える事である。我々の心づかいを教えることだと云っている。

－　言葉を道具だと考えてはならない　＝　道具を扱う練習だと考えるのは成人に向って言う時は、その方が便利だから、そう言っても良いが、子供は言葉を道具だと思っていない。

o　幼児でも、ウンチとかオシッコとかは急ぐ覚える　－　こう言う言葉は何故覚えるのか。親がおしえたからか？そうではなく、ちゃんと覚えられる音声になっているからである。

音と気分を結びつける事を絶対に早くやらなければいけない。

これが出来れば言葉と言うものはわけないことで気分を教えて行く、これを教えないで単語教育ばかりやったのでは片言教育にしかならない。

— この間日本人の我々よりは日本語が上手ではないかと言ったが世の人にほめることは、出来るが不安を生じた。それは余計な言葉が入らないことである。あのウーンとか口ごもることがない。

これは頭を通過してしゃべっているからである。上原教授は逆に気分からいきなさいと言われる。ハートでものを言えといっている。

例えば、1年半ばかり研修生で日本に来ていた二世の子供が非常に日本語をじょうずに使っておられた。その二世の子供に教授はあなたにとって日本語はどう言うところが不便ですかとたずねた。と私は早く言うべきときに早く出る、ゆっくり言うときにゆっくり出る。こう言うことが出来ないと答えた。

これは気分を使うと言うことをしないから頭ばかりで言うから同じ調子にしかしゃべれないと言う事である。

— 「来なさい」「来い」「おいで」「おいでよ」「おいでよったら」は、このうち子供にとって一番むつかしいのは「来なさい」である。感覚がつたわらないからである。つまり教科書に書かれているような文章は子供にとって一番難かしいのである。従って我々はあべこべなことを子供に教えて来たと言える。ついつい大人なの中途半ばな気持ちでやるものだから。

— こう言うふうにやればいいんだと言うことまで摑まえて欲しい、それは、世界中で一番日本語が多いと言われているけれども普通は、

声
擬 音　　語と読まれているが、こう言う言い方はキライであると教授は言われる。
態

犬がワンワンと言って、犬のなき声をまねした言葉だと言っている　—　擬声語

お寺の鐘がゴーンゴーンと言っている　—　擬音語、これはウソである。

人間はあれ以上まねが出来ないのである。お寺の鐘はコーンと言っているかどうかはわからない。

汽車が走っています。ガッタンコッコ、カッタンコッコ、これもウソである。ガッタンコッコなど言ってないから、テープにとってみればわかる。では汽車の音　ガから始まるのか、そして一番最後がコで終る。これは回転音であるなら一番最初の音なんかないはずである。ところが人間は必らず最初の音と終りの音とをくっつけなければ承知出来ないのである。と言うより聞けないのだ。

人間は言い始め、音が聞こえてくる。一番最初の音と、終りの音を覚える習性をもっている。

— 擬声語、擬音語、擬態語と言っていたこの類いの言葉が世界中で一番多いのが日本語である。

こう言った言葉は翻訳不可能である。こう言った言葉にはいいようがないからである。

例、　あの人はスラット背が高いね。　　スラットと言う言葉はないから翻訳出来ない。

　　スラリ　　スラリも同じことである。

ぼくはドシンとしりもちをつきました。　ー　文の主文は何にが、ぼくがしりもちをついた、これがもっとも一番大切な文である。それを修飾してドシンとして入っているとばかなことを言っていたものである。

一番大事なのは伝えたいのはドシンなのである。ドシン、しりもちで大体の事はつかめる。

ドシンであの人のお尻りは、どれ位だとか重さか、どれ位だとかがわかると言うものである。

そうだとすると、このどしんだとかすらりとしていると言う言い方はむしろ、それが感覚、そのものである。"それを先ず教えることだと思う"　ー　感覚訓練として、

きらきら、　一番基礎的と言えるが、らりるれろ、この上に言葉をおく、なんでも作れる。

ゆらゆら、　置きかえてみると判るように、こう言う作り方があって、そして我々は今まで話して来たか？

さらさら、

にこにこ、　これは知らなくったって、この様な事は自然に話して来た。

しとしと、　このら行音と言うのは擬声、擬能語を作るのに非常に大事な言葉だと言える。

そろそろ、　ら行音と言うこのら．り．る．れ．ろと言うのは、日本語の頭にはこない。

しくしく、　だから、日本人はR．とL．の音がへたくそだと言われる。

そう言った言葉を持っていないと言う事は我々の心がそれに反応しないと言うことである。

但し第二音になるとものすごく使う。そう云う我々は感覚の作られ方を持っている。これは日本人のくせだと言える。だからこう言うくせが入って行かないと日本語と言うのは知り得ないんだと言える。

ねちやねちや　　この上になんでもくっつければ良いわけで色々な言葉が出来るけれども

かちやかちや　　なんでも出来るけれども、しかし、それにめちやめちやとくちやくちや

くちやくちや　　をくっつけてめちやくちやと言うような事を言う人がいるが、これらは

ぱちやぱちや　　すべて感覚語と云える。感覚と音とを１つにしてとらえて行ったものに

めちやめちや　　違いないと言うことだ。

ゆさゆさ　　外に　さが出た

ゆらゆら　　とゆさゆさとの違いは何にか、ゆとさの一音の違いが我々の取る感覚がぱっとかわる。ゆと言う音とさと言う音には何にがある　＝　基本的な感覚である。

例、　ゆらゆらとゆさゆさとは違うけれども、似てはいる。

似さしているのは、このゆと言うのが似さしている。ではゆと言うのは何か。

ゆれると言う言葉。

ゆれると言うのは、ゆらゆら、ゆれる同じことだ。

ゆと言う言葉、同意義語があるのがゆなのである。

そう言うのを感覚的に持っていて、そして音がパッパッパッと並らんだ時に我々の感覚、子供の感覚が刺激されて多分、この辺だと感覚的に身につけてゆくに違いないのである。

| | | |
|---|---|---|
| さっぱり | しました | この音は、さとか、すとか、きとか、やとか言う音が |
| すっぱり | | 差しかえになるだけで違いが出てくる。 |
| きっぱり | とあきらめました | やっぱりなんて言う言葉は本当はないのだ。っぱりと |
| やっぱり | あきらめました | 言う言葉は音感語でしかなかった。我々の感覚を音に |
| | | 置きかえたと言うことでしかない。 |

難かしくなって来ると、あくせく、これなんかも特別な言葉ではない。

どぎまぎ　こう言うのは難かしい、子供達は小学生などは先生僕は今日どぎまぎしたよなんては使わない。感覚的に難かしいと言うことであろう。

じたばた　これは結局二音のくりかえしを他の音とくっつけて言っているのである。
じたじたと言うのとばたばたと言うのを、くっつけて言っているのである。
ところが、ばたじたとは言わない。この辺りに日本人の感覚がある。ばたじたしているとは言わない。それは言わない言葉として持っていないと言うことでなく、言っても我々の感覚が受けつけないからである。

日本人の感覚が受けつけて呉れなかったからである。音は色んな組合せが出来るはずなのである。ところが選んで組合せて行く。そこに日本人が日本人らしくなって行くものがあると言う事なのである。

てきぱき　ぱきてきとは云わない。それはぱきてきと言っても我々の感覚が対応出来ない、しないからである。てきぱきと言うとパットわかる。

最後に、口を開いた音はアーであり、つぐんだ音はウーンであると昔から言われている。

人間生まれてくる時には、オギアーと言って生まれてくる、死ぬる時はウーンと言って口をつぐむと言われている。結局人間は音をつかうことで生まれて、そして音を使い終って、この世をおさらばして行く、その間の音使いだと言える。

◎　言葉の先生をすると言うのは、人間が生まれて死ぬまでの間の、どこかの段階でとらえて、そして、音使いを指導して行くのだと考えれば絶対に間違いにならないと思う。

人間は、生まれて死ぬまで音使いを自分で工夫し、又自分で考えるとしている。それぞれの年令で、もう日本語の勉強は誰も思っていない。あ、あの人は声の調子が変わったとか、あの人なにか、カツカツカツものを言っているあの人は恐っているんじやないか、いや、あの人のカツカツは見せかけにすぎない、あの人はなんだかしんみりしている、あのしんみりは、ただ事ではないと、言うふうに我々は聞いている。等はほんの一部であるが、皆んながどんな所の感覚を一番記憶しているのか、そして感覚がどの辺が一番ふるうのか、これを出して見れば一番よくわか

るのであるが、この問題は、この次と言うことで今日の講義は終る。

所　感：日本語教育について

何にを考えなければならないかは、それぞれ異なると思うが、外国に生まれた子供にとってはすでに音としてとらえるものが、日本と較べてくるって来ていることだと考える。

では、どの様にして日本語を教えるかと言うことになると、今急に結論は出すことが出来ない様々な問題があるからである。

長々と書き綴って来たけれど、この問題は我々研修生にとって非常に比重の重い問題であるが故に、いいかげんなことがかけなかったと言うことです。

小田　記

第２３、２４日　７月９，１０日　土、日曜日　天気良好

今回訪日は、研修が第１の目的であるが、内心今日の日が来た事はやましい考えとは思うが念願の郷里への旅です。

８時の大宮発の新幹線に乗るのに気はそわそわ朝３時に目を覚して気が落着かない。

２７年振りの亡父母の墓参り、父母、兄弟８人の内、１人渡伯した。時勢に（終戦後の不景気、不況時代）我が道を選んだ渡伯だ。頼よる人も別に無く自分に聞かせむち打って励げんだ力の報い固く心に秘められた機会だと思い、新幹線に便乗、昔５時間は要した東北線も１時間余の電車でも最っと走ってくれないかと心は先走った。

郡山駅に迎えを受け、４０分位で我が家、懐しの温泉境に着いた。兄さん達と挨拶もそこそこ仏壇の前に座った。休む暇もなく墓参り、安心感とやたらに昔を思い出した。

兄貴の経営するホテルも大改築に依って一流になり先ず安心、肩の重荷を抜いて世間話、渡伯話と夜遅くまで語りあった。

日曜日昼から根岸向け出発門限１０時迄、まにあった、明日から精を出して頑張りたいと思います。

石川　記

第２５日　７月１１日　月曜日　曇のち晴

７月も中旬だと云うのに、大変寒い日で、朝は吐く息も白く夏服には身に泌みる風であった。

土、日を利用しての郷里訪問又は、友人、知人を訪ねての疲れか、電車の中では少々元気が無い様子であった諸先生も、第２時限正善先生担当、現地授業研究では、ブラジル組、石川先生と私の現地報告に、質問意見が活発になされ、熱の入った授業となった。現地へ帰ってより深く、より広く、よ